

弘前大学農学生命科学部

研究業績目録

2016年10月 – 2017年9月

Lists of Published Research Works of the Faculty of Agriculture and Life Science
Hirosaki University
2016 (October) – 2017 (September)

弘前大学農学生命科学部

2018年2月

Faculty of Agriculture and Life Science
Hirosaki University
Hirosaki 036 – 8561, Japan
February, 2018

は し が き

本号の「研究業績目録」には、2016年10月から2017年9月までの業績を掲載しました。業績の区分は、a－研究論文、b－学術図書、c－その他の著書・訳書、d－学会発表、e－調査・実験報告書、f－その他、とし、各自の申請に基づいています。各学科の教員組織（2017年10月1日現在）は以下の通りです。

生物学科

（基礎生物学コース）

葛西身延，黒尾正樹，福澤雅志，大河 浩，小林一也，笹部美知子，西野敦雄，吉田 渉

（生態環境コース）

東 信行，杉山修一，池田紘士，石田 清，曾我部篤，山尾 僚

分子生命科学科

（生命科学コース）

姫野俵太，牛田千里，高田 晃，森田英嗣，横山 仁，栗田大輔，畠山幸紀

（応用生命コース）

殿内暁夫，橋本 勝，吉田 孝，坂元君年，園木和典，濱田茂樹

食料資源学科

（食料バイオテクノロジーコース）

石川隆二，千田峰生，赤田辰治，柏木明子，田中克典

（食品科学コース）

戸羽隆宏，岩井邦久，中島 晶，佐藤之紀，前多隼人

（食料生産環境コース）

青山正和，佐野輝男，田中和明，松山信彦，金児 雄

国際園芸農学科

（園芸農学コース）

荒川 修，鈴木裕之，張 樹槐，松崎正敏，川崎通夫，本多和茂，前田智雄，叶 旭君
田中紀充

（食農経済コース）

泉谷眞実，澁谷長生，石塚哉史，高梨子文恵，成田拓未，佐藤加寿子，佐藤孝宏
吉仲 怜，正木 卓

地域環境工学科

泉 完，佐々木長市，檜垣大助，藤崎浩幸，遠藤 明，加藤 幸，丸居 篤，森 洋
加藤千尋，鄒 青穎，森谷慈宙

生物共生教育研究センター

伊藤大雄，林田大志，姜 東鎮，房 家琛

目 次

生物学科	67
基礎生物学コース	67
生態環境コース	69
分子生命科学科	73
生命科学コース	73
応用生命コース	75
食料資源学科	78
食料バイオテクノロジーコース	78
食品科学コース	80
食料生産環境コース	83
国際園芸農学科	87
園芸農学コース	87
食農経済コース	91
地域環境工学科	95
生物共生教育研究センター	99

業績目録

【生物学科】

【基礎生物学コース】

葛西 身延

黒尾 正樹

- d-01. Tsukamoto, S., M. Kuro-o, T. Okamoto, M. Motokawa: Genetic and morphological variations of *Plestiodon funitimus* in Northern Japan. The international symposium on Asian vertebrate species diversity (AVIS 6) (Okinawa), 2016.
- d-02. 丹羽奎太・黒尾正樹：ミトコンドリアDNA解析に基づくツシマサンショウウオの2系統. 日本爬虫両棲類学会第55回沖縄大会(沖縄), 2016.
- d-03. 塚本誠太・黒尾正樹・岡本 卓・本川雅治：北日本におけるヒガシニホントカゲの遺伝的・形態的変異について. 日本爬虫両棲類学会第55回沖縄大会(沖縄), 2016.
- d-04. 黒尾正樹・鈴木千尋・田中 駿・佐々木七星・長内淳次・石田 清：マイクロサテライト・マーカーを用いたチョウゲンボウの個体識別. 日本鳥学会2017年度大会(つくば), 2017.
- d-05. 丹羽奎太・黒尾正樹・西川完途：mtDNA解析に基づくツシマサンショウウオの2集団. 日本動物学会第88回大会(富山), 2017.
- f-01. Niwa, K., M. Kuro-o: Two lineages of *Hynobius tsuensis* based on mitochondrial DNA analysis. Bull. Herpetol. Soc. Jpn, 2017: 64, 2017.
- f-02. Tsukamoto, S., M. Kuro-o, T. Okamoto, M. Motokawa: Genetic and morphological variations of *Plestiodon funitimus* in Northern Japan. Bull. Herpetol. Soc. Jpn, 2017: 99, 2017.
- f-03. 黒尾正樹・鈴木千尋・田中 駿・佐々木七星・長内淳次・石田 清：マイクロサテライト・マーカーを用いたチョウゲンボウの個体識別. 日本鳥学会2017年度大会講演要旨集: 54, 2017.

福澤 雅志

- d-01. 岩田大次郎・永井峻介・福澤雅志：内因性アデノシン減少による発生への影響とサイズ調節に変異を持つREMIミュータントの解析. 日本細胞性粘菌学会 第6回年会(上智大学), 2016.

大河 浩

- d-01. 太田翔子・野口明日笑・和田みさき・大河 浩：トマト果実におけるPEPC翻訳後修飾機構. 第6回東北植物学会大会(仙台), 2016.
- d-02. 片野創太・Ferjani Ali・大河 浩：シアノバクテリアの生育における可溶性PPaseの役割. 第6回東北植物学会大会(仙台), 2016.
- d-03. 野口明日笑・太田翔子・信平華寿・大河 浩：トマトPEPC酵素活性特性解析. 第6回東北植物学会大会(仙台), 2016.
- d-04. 片野創太・Ferjani Ali・大河 浩：シアノバクテリアにおける可溶性PPaseの役割. 日本植物学会第81回大会(野田), 2017.
- d-05. 太田翔子・野口明日笑・大河 浩：トマト果実におけるPEPC翻訳後修飾機構の解明. 日本植物学会第81回大会(野田), 2017.

小林 一也

- a-01. Kobayashi, K., T. Maezawa, H. Tanaka, H. Onuki, Y. Horiguchi, H. Hirota, T. Ishida, K. Horiike, Y. Agata, M. Aoki, M. Hoshi, M. Matsumoto: The identification of D-tryptophan as a bioactive substance for postembryonic ovarian development in the planarian *Dugesia ryukyuensis*. Sci. Rep., 7: 45175, 2017
- b-01. 小林一也・関井清乃：シリーズ・生命の神秘と不思議 プラナリアたちの巧みな生殖戦略. 裳華房, 2017
- c-01. 小林一也：切っても死なない!? プラナリアから学ぶ生殖戦略. 青い森しんきん とれんど情報, No.456, 11月号, 2016

- d-01. Kobayashi, K.: Reproductive switching in freshwater planarians: Asexual *Dugesia ryukyuensis* worms are experimentally sexualized by administration of substances contained in yolk glands. International Symposia III, The 22th International Congress of Zoology (Okinawa), 2016 (招待講演)
- d-02. Maezawa, T., M. Ishikawa, K. Sekii, G. Nagamatsu, K. Kobayashi: Tryptophan activates the reproductive organ-specific expression level of an amino acid transporter homolog, *Dr-SLC38A9* to promote sexual induction of the planarian *Dugesia ryukyuensis*. The 87th meeting of Zoological Society of Japan (Okinawa), 2016
- d-03. Miyashita, S., M. Ishikawa, K. Sekii, T. Maezawa, K. Kobayashi: Putative sex-inducing substances in cocoons of the planarian *Dugesia ryukyuensis*. The 87th meeting of Zoological Society of Japan (Okinawa), 2016
- d-04. 前澤孝信・宮下奏一郎・石川正樹・関井清乃・永松剛・小林一也：D-トリプトファンによるプラナリア有性化の誘導機構。平成29年度日本動物学会中国四国地区三学会合同大会(高知), 2016.
- d-05. Kobayashi, K.: Switching from an asexual to a sexual state in freshwater planarians: Identification of sex-inducing substances. The International Research Symposium on Regulation of Germ Cell Development *in vivo* and *in vitro* (Fukuoka), 2017 (招待講演)
- d-06. 小林一也：プラナリアにおいて無性生殖から有性生殖への転換を誘導する低分子化合物について。関連集会「生殖戦略—さまざまな動物の次世代創発システム」日本動物学会第88回富山大会(富山), 2017(招待講演)
- d-07. 佐藤勇輝・永尾理沙・嶋崎 綾・関井清乃・小林一也・柴田典人・阿形清和：プラナリアの胚発生期における全能性幹細胞ニッチの形成。日本動物学会第88回富山大会(富山), 2017
- d-08. 関井清乃・宮下奏一郎・虻川真里奈・佐々木瑞希・関まどか・小林一也：扁形動物門で広く保存される有性生殖誘導因子。日本動物学会第88回富山大会(富山), 2017
- d-09. 前澤孝信・宮下奏一郎・石川正樹・関井清乃・小林一也：D-トリプトファンによるプラナリア有性化の誘導機構。日本動物学会第88回富山大会(富山), 2017
- d-10. 宮下奏一郎・石川正樹・虻川真里奈・関井清乃・坂元君年・前澤孝信・小林一也：メタボローム解析を用いたプラナリア有性化因子の同定。日本動物学会第88回富山大会(富山), 2017
- f-01. 関井清乃・宮下奏一郎・小林一也：意外と知らないプラナリア。来て見て触って遊んでいって！日本動物学会第87回沖縄大会(沖縄), 2016

笹部 美知子

- a-01. Li, H., B. Sun, M. Sasabe, X. Deng, Y. Machida, H. Lin, Y. Lee, B. Liu: Arabidopsis MAP65-4 Plays A Role in Phragmoplast Microtubule Organization and Marks the Cortical Cell Division Site. *New Phytologist*, **215**: 187–201, 2017
- d-01. 鈴木侖奈・森岡社門・西田結花・松垣 匠・植村知博・安原裕紀・馳澤盛一郎・上田貴志・町田泰則・笹部美知子：細胞板形成におけるNACK1キネシンの役割。東北植物学会第6回大会(東北大学青葉山北キャンパス), 2016.
- d-02. 増子雄貴・笹部美知子:M期特異的に発現する新奇レセプター様キナーゼの機能解析。東北植物学会第6回大会(東北大学・青葉山北キャンパス), 2016.
- d-03. 笹部美知子・伊藤千尋・樋口奈々美・高橋雛子・佐野亮輔・倉田哲也・出村 拓・町田泰則：細胞の伸長と分裂の方向を決める因子の探索：プロトプラストと化合物の利用。日本植物学会第81回大会(東京理科大学・野田キャンパス), 2017.
- d-04. 鈴木崇紀・笹部美知子・町田千代子・町田泰則：葉の形態形成を司るシロイヌナズナのMYB転写因子ASYMMETRIC LEAVES 1 (AS1) タンパク質の細胞内局在における新たな知見。日本植物学会第81回大会(東京理科大学・野田キャンパス) 2017.

西野 敦雄

- a-01. Hirai, S., K. Hotta, Y. Kubo, A. Nishino, S. Okabe, Y. Okamura, H. Okado: AMPA glutamate receptors are essential for sensory-organ formation and morphogenesis in the basal chordate. *Proc. Natl. Acad. Sci. U. S. A.*, **114**: 3939–3944, 2017.
- a-02. 西野敦雄・小野富三人：神経筋シナプスのメカニズムとその進化：ホヤから魚，そしてヒトへ。比較生理生化学 **34**: 12-21, 2017.
- b-01. Nishino, A.: Morphology and physiology of the ascidian nervous systems and the effectors. In “Transgenic Ascidiars” Y. Sasakura (ed.) Springer, in press, 2017.
- b-02. Nishino, A., Y. Okamura: Evolutionary history of voltage-gated sodium channels. In the Handbook of Experimental

Pharmacology series “Voltage-gated Sodium Channels and Their Related Diseases” M. Chahine (ed.) Springer, in press, 2017.

- d-01. 西野敦雄・工藤千珠秀・西野純子・伊藤良博・小谷健二・森 恭子・吉田 達：高温下におけるホタテ鰓纖毛運動の高速度カメラ解析およびネンエキボヤの実験室内飼育系の確立. 平成28年度青函水産試験研究交流会議（ホタテガイ部会）（函館市国際水産・海洋総合研究センター）, 2016.
- d-02. 西野敦雄・渡部 翔・原 隆志：ホヤ幼生の遊泳運動を規定する内的要因. 日本動物学会第88回大会, シンポジウム「海産無脊椎動物—生命情報の宝の山V—」（富山県民会館）, 2017.
- d-03. 横堀伸一・笠原享祐・大塚玄航・西野敦雄・小沼 健・西田宏記・山岸明彦：18S rRNA 遺伝子並びにミトコンドリアゲノムに基づくオタマボヤ綱の分子系統解析. 日本動物学会第88回大会（富山県民会館）, 2017.

吉田 渉

- a-01. 吉田 渉・大嶋真謙¹⁾：好適培養条件下におけるマナモコの幼生成長速度. 弘前大学農学生命科学部学術報告 19: 1-10, 2017. 1) 現) 株式会社シャトー海洋調査
- d-01. Yoshida, W., S. Nishitani, S. Ishida: The first record of *Phagocata sibirica* (Platyhelminthes: Planariidae) in Japan. The 87th meeting of Zoological Society of Japan (Okinawa), 2016.
- d-02. Kubo, K., Q. Wang, Y. Saito, M. Osanai, W. Yoshida: Regeneration of internal organs in sea cucumber *Apostichopus japonicus*. The 87th meeting of Zoological Society of Japan (Okinawa), 2016.
- d-03. 吉田 渉・田中議顕¹⁾・須藤耕佑²⁾：アメフラシに寄生する扁形動物 *Urastoma* sp. の多産系統. 第19回大会 日本進化学会（京都大学）1) しまね海洋館, 2) 国立科学博物館
- f-01. 吉田 渉：驚くべきマナモコの再生, その能力に迫る！ 兵庫県立大学生体情報科学一講座セミナー 講演（兵庫県立大学）2017年5月22日
- f-02. 吉田 渉：マナモコ漁業と資源管理, そして増養殖へ. 日本青年会議所水産部会 講演（南あわじ市）2017年9月23日

【生態環境コース】

東 信行

- a-01 Sato, N. N. Azuma : Isotopic fractionation with morphological change and sexual specificity in the lappet moth *Euthrix potatoria*, Entomologia Experimentalis et Applicata, 161(3): 181-186, 2016
- a-02 塩塚菜生・東 信行：青森県西部におけるカワネズミ *Chimarrogale platycephalus* の捕獲記録, 白神研究. 12: 32-37, 2017
- a-03 ムラノ千恵・東 信行：青森県弘前市のりんご園におけるハタネズミ *Microtus montebelli* のアルビノ個体の捕獲, 哺乳類科学. 57: 99-102, 2017
- a-04 矢田谷健一・泉 完・東 信行・丸居 篤：既設全面越流型階段式魚道切欠き部における小型ウキゴリ類等の遡上実態調査, 土木学会論文集B1（水工学）Vol.73, No.4, I_397-I_402, 2017
- a-05 矢田谷健一・泉 完・東 信行・丸居 篤（2017）：河川遡上期の小型ウキゴリ類の高流速条件下における遊泳能力, 農業農村工学会論文集, No.305, (85-2), II_53-II_59, 2017
- d-01 Honda, R. N. Azuma: Does the great cormorant kleptoparasitize on the grey heron's antipredatory effort in the mixed-species colony ?, 22nd International Congress of Zoology, 2017 (Okinawa)
- d-02 東 信行：様々な元素を用いた動物の移動追跡, 日本生態学会第64回全国大会, 2017
- d-03 藤田 剛・須和健太・杉山大和・清川紘樹・黒江美紗子・東 淳樹・東 信行・宮下 直：里山に生息する猛禽サシバの餌動物量の緯度勾配：分布北限周辺のカエル, ネズミ, バッタ類を中心に, 日本生態学会第64回全国大会（東京）, 2017
- d-04 森田知沙・香川裕之・東 信行：河畔林における同一巣での繁殖例からみたオオタカとノスリの資源利用, 日本生態学会第64回全国大会（東京）, 2017
- d-05 菊地亮太・神崎東子・工藤誠也・井上博元・東 信行：再開発ダム完成前後のダム下流生態系における物質循環の比較, 日本生態学会第64回全国大会（東京）, 2017
- d-06 本多 里奈・東 信行：なぜカワウとアオサギは同居できるのか?, 日本生態学会第64回全国大会（東京）, 2017
- d-07 工藤誠也・大宮慧子・三浦太智・渡邊 泉・東 信行：軟組織微量元素を用いたマダラ陸奥湾産卵群の来遊源推定, 平成29年度日本水産学会春季大会（東京）, 2017

- d-08 三浦太智・工藤誠也・白井厚太郎・杉原奈央子・東 信行：耳石微量元素を用いたマダラ陸奥湾産卵群の来遊履歴推定平成29年度日本水産学会春季大会（東京），2017
- d-09 杉本亜里沙・泉 完・東 信行・丸居 篤：小型通し回遊魚の遊泳能力について一ワカサギの臨界遊泳速度に関する実験（予報），平成29年度農業農村工学会大会（藤沢）：676-677, 2017
- d-10 日詰文太・ムラノ千恵・東 信行：津軽地方のリンゴ園地帯に生息するフクロウの採餌生態，日本哺乳類学会2017年度大会（富山），2017
- d-11 ムラノ千恵・東 信行：りんご果樹園に営巣したフクロウのハタネズミ個体数抑制効果，日本鳥学会2017年度大会（つくば），2017
- d-12 本多里奈・東 信行：カワウ・アオサギ混合コロニーにおける営巣位置と繁殖成績，日本鳥学会2017年度大会（つくば），2017
- d-13 日詰文太・ムラノ千恵・東 信行：りんご園地帯における繁殖期のフクロウの生息環境特性，日本鳥学会2017年度大会（つくば），2017
- d-14 鈴木遥菜・高橋雅雄・蝦名純一・東 信行：同所的に繁殖したニューナイスズメとスズメの給餌内容，日本鳥学会2017年度大会（つくば），2017
- d-15 菊地亮太・神崎東子・工藤誠也・井上博元・東 信行：再開発ダム完成前後のダム下流域生態系における物質循環の比較，日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会－3学会合同大会（ELR2017名古屋）（名古屋），2017
- d-16 笠原里恵・森田知沙・香川裕之・東 信行：岩木川の河畔林で営巣するオオタカの採食生態と食物資源，日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会－3学会合同大会（ELR2017名古屋）（名古屋），2017

杉山 修一

- a-01. Hosoya, K., S. Sugiyama: Weed communities and their negative impact on rice yield in no-input paddy fields in the northern part of Japan. *Biological Agriculture & Horticulture*. **33**: 215-224, 2017.
- d-01. 杉山修一・平久江歩美：奇跡のリンゴとマイクロバイオーーム. 日本草地学会青森大会（弘前大学），2017.
- d-02. Wang, B., S. Sugiyama: Diversity of root microbiome among 20 plant families: are there any assemble rules in root microbiome. 環境微生物系合同大会2017（東北大学），2006.

池田 紘士

- a-01. Koyama, T., H. Ito, T. Fujisawa, H. Ikeda, S. Kakishima, J. R. Cooley, C. Simon, J. Yoshimura and T. Sota: Genomic divergence and lack of introgressive hybridization between two 13-year periodical cicadas support life cycle switching in the face of climate change, *Mol. Ecol.*, **25**: 5543-5556, 2016.
- a-02. Taki, H., H. Ikeda, T. Nagamitsu, M. Yasuda, S. Sugiura, K. Maeto and K. Okabe: Stable nitrogen and carbon isotope ratios in wild native honeybees: the influence of land use and climate, *Biodivers. Conserv.*, <https://doi.org/10.1007/s10531-016-1114-x>
- a-03. 長谷川元洋・藤井佐織・金田 哲・池田紘士・菱 拓雄・兵藤不二夫・小林 真：土壤動物をめぐる生態学的研究の最近の進歩，*日本生態学会誌*，**67**: 95-118, 2017.
- a-04. 池田紘士：混合モデルを用いたオサムシ科ゴミムシ亜科甲虫の利用餌推定，*昆虫と自然*，**52** (2): 7-11, 2017.
- d-01. 池田紘士・福森香代子・加賀谷悦子・高橋正通・伊藤雅道・酒井佳美・松本和馬：山地の天然林に生息する土壤動物群集の形成プロセスの解明，*日本生態学会第64回日本生態学会大会（早稲田大学）*，2017.
- d-02. Taki, H., H. Ikeda, T. Nagamitsu, M. Yasuda, S. Sugiura, K. Maeto and K. Okabe：全国調査で明らかとなったニホンミツバチの窒素と炭素の安定同位体比，*日本生態学会第64回日本生態学会大会（早稲田大学）*，2017.
- d-03. 福森香代子・古賀隆一・篠原 忠・棚橋薫彦・池田紘士・深津武馬：カメノコハムシ類がもつ共生細菌の多様性と二者間の共進化関係を探る，*日本生態学会第64回日本生態学会大会（早稲田大学）*，2017.
- d-04. 清川 僚・池田紘士：日本産メスジゲンゴロウ属における性特異的な形態進化，*日本生態学会第64回日本生態学会大会（早稲田大学）*，2017.
- d-05. 池田紘士：土壤動物の移動と進化を追って，*日本土壤動物学会第40回日本土壤動物学会大会，招待講演*，（横浜国立大学），2017.
- d-06. Ikeda, H., K. Fukumori, E. Shoda-Kagaya, M. Takahashi, M. T. Ito, Y. Sakai, K. Matsumoto: Evolution of a key life-history trait greatly affects community assembly over evolutionary time scales in megascolecid earthworms, *Second Global Soil Biodiversity Conference (Nanjing)*, 2017.

石田 清

- a-01. Kato T., K. Ishida, J. Kikuchi, J. Torii: Induced response to herbivory in stinging hair traits of Japanese nettle (*Urtica thunbergiana*) seedlings in two subpopulations with different browsing pressures by sika deer. *Plant Species Biology* 32: 340–347, 2017.
- a-02. Torimaru T, S. Akada, K. Ishida, M. Narita, D. Higaki: Species habitat associations in an old-growth beech forest community organized by landslide disturbances. *Journal of Forest Research* <http://dx.doi.org/10.1080/13416979.2017.1396418>. Published online: 30 Oct 2017
- d-01. 石田 清：ブナ林冠木の開葉フェノロジーの場所間変異と年変動. 第64回日本生態学会大会（早稲田大学）, 2017.
- d-02. 杉本 咲・石田 清：ブナ林冠木の開葉フェノロジーにおける個体間・集団間変異. 第64回日本生態学会大会（早稲田大学）, 2017.
- d-03. 船木賢人・石田 清：分布以北におけるシラカシの肥大成長と気象要因との関係. 第64回日本生態学会大会（早稲田大学）, 2017.
- d-04. 井上みずき・石田 清・智和正明・上原佳敏・篠塚賢一・久米 篤：雌雄異株植物ヤチヤナギの葉内養分濃度の集団間変異. 第64回日本生態学会大会（早稲田大学）, 2017.
- d-05. 宮沢良行・石田 清・Giambelluca W Thomas: 樹液流計測が変える森林成長の観測. 第64回日本生態学会大会（早稲田大学）, 2017.
- d-06. 行年恭兵・玉木一郎・鈴木節子・石田 清・戸丸信弘：コブシとシデコブシの種間交雑がシデコブシの存続に及ぼす影響. 第64回日本生態学会大会（早稲田大学）, 2017.
- d-07. 黒尾正樹・鈴木千尋・田中 駿・佐々木七星・長内淳次・石田 清：マイクロサテライト・マーカーを用いたチョウゲンボウの個体識別. 日本鳥学会2017年度大会（筑波大学）, 2017.

曾我部 篤

- a-01. Kawanishi R., A. Sogabe, R. Nishimoto, H. Hata: Spatial variation in the parasitic isopod load of the Japanese halfbeak in western Japan. *Dis. Aquat. Org.* **122**: 13–19, 2016
- a-02. Sogabe A., H. Hamaoka, A. Fukuta, J. Shibata, J. Shoji, K. Omori: Application of stable isotope analysis for detecting filial cannibalism. *Behav. Process.* **140**: 16–18, 2017.
- a-03. Hata, H., A. Sogabe, S. Tada, R. Nishimoto, R. Nakano, N. Kohya, H. Takeshima, R. Kawanishi: Molecular phylogeny of obligate fish parasites of the family Cymothoidae (Isopoda, Crustacea): Evolution of the attachment mode to host fish and the habitat shift from saline water to freshwater. *Mar. Biol.* **164**: 105, 2017.
- d-01. 木村知里・曾我部篤：トウヨシノボリにおけるビデオプレイバック実験の有効性. 日本動物行動学会第35回大会（新潟市）, 2016.
- d-02. 高辻貴一・曾我部篤：ヤドカリの墓場～廃タイヤによるゴーストフィッシング～. 日本動物行動学会第35回大会（新潟市）, 2016.
- d-03. 高辻貴一・曾我部篤：海洋投棄された廃タイヤによるヤドカリのゴーストフィッシング. 第64回日本生態学会大会（東京都）, 2017.
- d-04. 畑啓生・曾我部篤・川西亮太：魚類絶対寄生性のウオノエ科等脚類の系統進化：寄生様式の多様化と淡水域への侵出. 第64回日本生態学会大会（東京都）, 2017.
- d-05. Sogabe, A.: Ovarian structure and mode of egg production as a phylogenetic constraint on mating patterns in Syngnathids. *Syngbio 2017*, Tampa, Florida, 2017. (Keynote)
- f-01. 曾我部篤：素っ気ないけど円満なイシヨウジの一夫一妻. 葛西臨海水族園「大人のためのスイート講演会 Episode 3：オスとメスのつきあい方」(東京都), 2017.
- f-02. 曾我部篤：探せ！シークレットフィッシュ. 日本動物学会東北支部主催「親子で楽しむ動物学17」(青森市), 2017.

山尾 僚

- a-01. Yamawo A., M. Sato, H. Mukai: Experimental evidence for benefit of self discrimination in roots of a clonal plant. *AoB PLANTS*. plx049, 2017.
- a-02. Suetsugu K., T. Shitara, A. Yamawo: Seed dispersal by ants in the fully mycoheterotrophic plant *Sciapila*

- secundiflora* (Triuridaceae). Journal of Asia-Pacific Entomol. **20**: 914–917, 2017
- a-03. Yamawo A., H. Mukai: Seeds integrate biological information about conspecific and allospecific neighbours. Proc. Royal Soci. B. **284**: 1857, 2017.
- a-04. Shirahama S., A. Yamawo, M. Tokuda: Dimorphism in the production of leaf trichomes in *Persicaria lapathifolia* (Polygonaceae) and their multiple defensive effects against herbivores insects. Arthropod-Plant Interact. **11**: 683–690, 2017.
- a-05. Yamawo A, N. Suzuki: Concentration and retention of chlorophyll around the extrafloral nectary of *Mallotus japonicus*. Ecol. Evol. **7**: 3987–3991, 2017
- a-06. Yamawo A., Y. Hada, J. Tagawa: Aggressiveness of ants attracted to the extrafloral nectary bearing plant, *Mallotus japonicus*, and temporal fluctuations in their abundance. Entomol. Sci. **20**: 150–155, 2017
- a-07. Yamawo A: Plasticity and efficacy of defense strategies against herbivory in ant-visited plants growing in variable abiotic conditions. In Ant-Plant Interactions Impacts of Humans on Terrestrial Ecosystems. (eds. Paulo S. Oliveira & Suzanne Koptur) Cambridge University Press, 2017.
- d-01. Yamawo A., H. Mukai: The role of kin discrimination in interspecific competition of *Plantago asiatica*. In symposium: Plant-Plant Communication (organized by Shiojiri K. & Karban R.). The joint meeting of the 33rd annual meeting of the ISCE and the 9th meeting of the APACE. (龍谷大学), 2017.
- d-02. 山尾 僚・向井裕美: オオバコの種子は捕食者の存在を何でしるか? ~排泄物は危険の知らせ~. 日本生態学会第64回大会(早稲田大学), 2017.
- d-03. 佐藤美桜里・山尾 僚: ウリ科植物の巻きひげは自己・非自己を識別するか?. 日本生態学会第64回大会(早稲田大学), 2017.
- d-04. 佐藤美桜里・山尾 僚: ツル植物の巻きひげは自他を識別するか?—ウリ科ツルレイシ属を用いた検証—, 種生物学学会第48回大会(札幌キョロトリビュートポートフォリオホテル), 2016.
- d-05. 山尾 僚・向井裕美: 発芽する?しない?オオバコ種子による植食者の排泄物を介した被食回避. 種生物学学会第48回大会(札幌キョロトリビュートポートフォリオホテル), 2016.
- d-06. 大崎晴菜・山尾 僚: 種内の Plant-Soil Feedback は個体群によって異なる. 日本生態学会東北地区大会第61回大会(山形蔵王温泉), 2016.
- d-07. 山尾 僚: 植物は複雑な世界でどう生き抜くか. 日本生態学会東北地区会第61回大会特別講演(山形蔵王温泉), 2016.
- d-08. 山尾 僚: とんりの植物と築く多様な相互作用: 種内関係から植物—アリ共生系の謎に挑む. 第80回昆虫学会九州支部例会(佐賀大学), 2016.
- d-09. 山尾 僚: 植物における情報利用と柔軟な応答. 熊本大学セミナー(熊本大学), 2017.
- d-10. 山尾 僚: オオズアリにおけるメジャーワーカーの頭とお腹の役割. 青森昆虫談話会,(弘前市民会館), 2016.
- d-11. 山尾 僚: 複数の形質を用いた被食防御: 葉齢と生育環境に応じた可塑的変異. 森林科学セミナー(秋田県立大学), 2016.

【分子生命科学科】

【生命科学コース】

姫野 俵太

- a-01. Ma, C., Kurita, D., Li, N., Chen, Y., Himeno, H., Gao, N.: Mechanistic insights into the alternative translation termination by ArfA and RF2. *Nature*, 541: 550–553, 2017.
- a-02. López-Alonso, J., Kaminishi, T., Kikuchi, T., Hirata, Y., Iturrioz, I., Dhimole, N., Schedlbauer, A., Hase, Y., Goto, S., Kurita, D., Muto, A., Zhou, S., Naoe, C., Mills, D., Gil, D., Takemoto, C., Himeno, H., Fucini, P., Connell, S. R.: RsgA couples the maturation state of the 30S ribosomal decoding center to activation of its GTPase pocket. *Nucleic Acids Res.*, 45: 6945–6959, 2017.
- a-03. 姫野俵太・栗田大輔：細菌におけるリボソームレスキュー機構，*化学と生物*，54 (12): 878–884, 2016.
- d-01. 栗田大輔・Ma, C., Gao, N.・姫野俵太：ArfA と RF2 による翻訳終結機構の構造基盤，第19回日本RNA学会年会(富山市)，2017.
- d-02. 竹本千重・López-Alonso, J.P.・上西達也・菊池岳志・平田侑也・Iturrioz, I.・Dhimole, N.・Schedlbauer, A.・長谷要一・後藤史門・栗田大輔・武藤 昱・Zhou, S.・直枝智恵子・Mills, D.J.・Gil-Carton, D.・姫野俵太・Fucini, P.・Connell, S.R.: リボソーム小サブユニット依存GTPase RsgAの構造解析，第19回日本RNA学会年会(富山市)，2017.
- f-01. 栗田大輔・姫野俵太：リボソーム，ArfA，翻訳終結因子RF2，開始tRNA，mRNAからなる複合体のクライオ電子顕微鏡による構造解析，*ライフサイエンス新着論文レビュー*，2016年12月16日，2016.
- f-02. 姫野俵太：バクテリアにおけるリボソームレスキュー機構，奈良先端大学院大学バイオサイエンス研究科セミナー(生駒市)，2017.

牛田 千里

- d-01. 小山昂志・長嶋哲治・尾崎大意・遠藤 愛・牛田千里：線虫 CeR-2a RNA 遺伝子欠損株における60Sリボソームサブユニットの減少，第39回分子生物学会(横浜)，2016.
- d-02. Koyama, T., M. Endo, D. Ozaki, T. Chiba, D. Ushida: A novel mutant of *Caenorhabditis elegans* showing spermatogenesis and embryogenesis defects. UGAS symposium (Iwate Univ.), 2016.
- d-03. Chiba, T., M. Sato, S. Kihara, S. Goto, H. Himeno, C. Ushida: Binding of a *C. elegans* Y RNA to ROP-1. UGAS symposium (Iwate Univ.), 2016.
- d-04. 尾崎大意・小山昂志・牛田千里：線虫 CeR-2a RNA の欠損は受精卵の形に影響を及ぼす，第19回日本RNA学会年会(富山)，2017.
- f-01. 牛田千里：生命の仕組みを解明する，Creating My Own Path (文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)ロールモデル冊子)，p.3, 2017.
- f-02. 牛田千里：線虫 ROP-1/Y RNP 形成とストレス耐性，北東北女性研究者研究・交流フェア2017.

高田 晃

森田 英嗣

- a-01. 森田英嗣：プラス鎖RNAウイルスによって形成される複製オルガネラの構造と形成の分子機構，*生化学*，2017 89 (5): 744–747
- a-02. 森田英嗣：細胞内病原体の増殖を制御するオートファジー機構，*最新医学*，72 (2): 240–249, 2016
- a-03. 田端桂介・森田英嗣：ウイルス感染とオートファジー，*臨床免疫・アレルギー科*，66 (4): 330–336, 2016
- d-01. 後藤史門・石村麻里奈・石田幸太郎・天沼美里・吉田永吉・姫野俵太・森田英嗣：フラビウイルスキャプシド蛋白質の核小体への局在の意義，第52回日本脳炎ウイルス生態学研究会(沖縄)，2017. 5
- d-02. Morita, E: Identification of novel adapter protein involved in selective autophagy. The 8th International Symposium on Autophagy. Nara, Japan, 2017. 5
- d-03. 荒川将志・田端桂介・新井亜利紗・小林万希子・有本 大・森田英嗣：VCP複合体はフラビウイルス感染細胞のストレス応答を制御する，第69回日本細胞生物学会大会(仙台)，2017. 6
- d-04. 石村麻里奈・後藤史門・天沼美里・石田幸太郎・吉田永吉・牛田千里・姫野俵太・河原康一・森田英嗣：フラビ

- ウイルスキャプシド蛋白質と宿主リボソームとの相互作用. 第71回日本細菌学会東北支部総会(仙台), 2017. 8
- d-05. 木村咲伽・天沼美里・蝦名博貴・落合 晋・生田和良・森田英嗣: アデノ随伴ウイルスベクターシステムを利用したヒトパルボウイルスB19感染評価系の確立. 第65回日本ウイルス学会学術集会(大阪), 2017.10
- d-06. 天沼美里・後藤史門・石村麻里奈・石田幸太郎・吉田永吉・姫野俵太・森田英嗣: アラニンスキャニング変異導入によるフラビウイルスキャプシドの機能解析. 第65回日本ウイルス学会学術集会(大阪), 2017.10

横山 仁

- a-01. Matsubara, H., D. Saito, G. Abe, H. Yokoyama, T. Suzuki, K. Tamura: Upstream regulation for initiation of restricted *Shh* expression in the chick limb bud. *Developmental Dynamics*. 246: 417-430, 2017.
- a-02. Otsuka-Yamaguchi, R., A. Kawasumi-Kita, N. Kudo, Y. Izutsu, K. Tamura, H. Yokoyama: Cells from subcutaneous tissues contribute to scarless skin regeneration in *Xenopus laevis* froglets. *Developmental Dynamics*. 246: 585-597, 2017.
- d-01. 横山 仁: シンポジウム“再生生物学からの挑戦—再生医療への新たなアプローチ” アフリカツメガエルの皮膚再生と四肢再生 —立体的な器官再生の実現に向けての新たな実験ツール—. 日本再生医療学会(仙台市), 2017年
- d-02. 蓮濁里帆・小林託也・越智陽城・田村宏治・横山 仁: ツメガエル幼生における局所的な遺伝子発現誘導技術の確立. 日本動物学会東北支部大会(青森市), 2017年
- d-03. 横山 仁・蓮濁里帆・林 真一・川住愛子・亀井保博: アフリカツメガエルの器官再生から見た立体器官の再生メカニズム. 第3回次世代両生類研究会(岡崎市), 2017年
- d-04. 大塚理奈・川住愛子・工藤奈々子・井筒ゆみ・田村宏治・横山 仁: 瘢痕を残さない皮膚再生には皮下組織が寄与する —J系統を用いた細胞運命の追跡—. 第11回日本ツメガエル研究集会 えびの市(宮崎県), 2017年
- d-05. 蓮濁里帆・小林託也・越智陽城・田村宏治・横山 仁: ツメガエルの四肢における局所的な遺伝子発現誘導技術の確立. 日本動物学会第88回大会(富山市), 2017年
- f-01. 横山 仁: 傷あとを残さない皮膚再生 —カエルで明らかになった皮膚再生を可能にする細胞の起源 *Academist Journal* (<https://academist-cf.com/journal/?p=5988>).

栗田 大輔

- a-01. López-Alonso JP, T. Kaminishi, T. Kikuchi, Y. Hirata, I. Iturrioz, N. Dhimole, A. Schedlbauer, Y. Hase, S. Goto, D. Kurita, A. Muto, S. Zhou, C. Naoe, DJ. Mills, D. Gil-Carton, C. Takemoto, H. Himeno, P. Fucini, SR. Connell: RsgA couples the maturation state of the 30S ribosomal decoding center to activation of its GTPase pocket. *Nucleic Acids Research*. 45: 6945-6959, 2017.
- a-02. Ma C, D. Kurita, N. Li, Y. Chen, H. Himeno, N. Gao. Mechanistic insights into the alternative translation termination by ArfA and RF2. *Nature*, 541: 550-553, 2017.
- b-01. 姫野俵太・栗田大輔: 細菌におけるリボソームレスキュー機構, 化学と生物, 日本農芸化学会. 878-884, 2016
- d-01. 栗田大輔・Ma C・Gao N・姫野俵太: ArfAとRF2による翻訳終結機構の構造基盤. 第19回RNAミーティング(富山), 2017.
- d-02. 竹本千重・López-Alonso JP・上西達也・菊地岳志・平田侑也・Iturrioz I・Dhimole N・Schedlbauer A・長谷要一・後藤史門・栗田大輔・武藤 昱・Zhou S・直枝智恵子・Mills DJ・Gil-Carton D・姫野俵太・Fucini P・Connell SR: リボソーム小サブユニット依存GTPase RsgAの構造解析. 第19回RNAミーティング(富山), 2017.

畠山 幸紀

- d-01. 今 拓也・畠山幸紀: マウス自然発症腫瘍(3株)の組織病理学的特徴の比較. 日本動物学会平成29年度東北支部大会(東北大学附属浅虫海洋生物学教育研究センター), 2017.
- f-01. 畠山幸紀: 映像資料の提供. 『三訂版 視覚でとらえる フォトサイエンス生物図録 Digital版』iPad版, Windowsタブレット版 数研出版. 2017.
- f-02. 畠山幸紀: 教育用Webサイトの公開. <https://moodle.hirosaki-u.ac.jp/course/index.php?categoryid=8>(学内限定) 2017.

【応用生命コース】

殿内 暁夫

- a-01. Matsuo, H., Kudou, C., Li, B., Tonouchi, A.: *Acidicapsa acidisoli* sp. nov. from the acidic soil of a deciduous forest. *Int. J. Evol. Microbiol.* **67**: 862–867 (2017)
- a-02. Kusakabe, K., Honmura, Y., Uesugi, S., Tonouchi, A., Maeda, H., Kimura, K., Koshino, H., Hashimoto, M.: Neomacrosporin X, a [4.4.3] Propellane-Type Meroterpenoid from *Trichoderma* sp. 1212-03. *J. Nat. Prod.* **80**: 1484–1492 (2017)
- a-03. Matsumoto, M., Ito, A., Tonouchi, A., Okazaki, M., Hashimoto, M.: Stereochemical correction and total structure of Roridin J. *Tetrahedron* **73**: 5430–5435 (2017)
- b-01. 原田幸雄・殿内暁夫・宮入一夫・山岸洋貴：白神自然観察園のきのこ (7). 弘前大学白神自然環境研究所, 2017.
- b-02. 殿内暁夫：白神山地のキノコ (白神学入門). 弘前大学白神自然環境研究所編, 弘前大学出版会, 2017
- d-01. 殿内暁夫・松尾平三：白神山地土壌から分離した好酸性新規放線菌の系統分類学的研究. 日本微生物生態学会 31 回大会 (横須賀), 2016
- d-02. 森山裕理子・青山嘉宏・横山心結・殿内暁夫：白神山地からの酵母分離株と清酒醸造酵母との性状比較. 日本微生物生態学会 31 回大会 (横須賀), 2016
- d-03. ツァンバ オユングレル・松尾平三・殿内暁夫：白神山地土壌から分離した放線菌に関する研究. 日本微生物生態学会 31 回大会 (横須賀), 2016
- d-04. 工藤千沙希・松尾平三・殿内暁夫：白神山地土壌から分離した新規 *Acidobacteria* 門細菌に関する研究. 日本微生物生態学会 31 回大会 (横須賀), 2016
- d-05. 橋本 勝・日下部一晃・上杉祥太・本村優奈・殿内暁夫・木村賢一・前多隼人・越野広雪：[4.4.3]Propellane 型メロテルペン neomacrosporin X の構造. 第 59 回天然有機化合物討論会 (札幌), 2017
- f-01. 殿内暁夫：酵母について. あおもりリンゴ酒推進協議会 (弘前), 2017.2.17
- f-02. 殿内暁夫：白神山地の微生物を利用する. AGSA 平成 29 年度 第三回オープンスクール (板柳), 2017.2.21
- f-03. 殿内暁夫：白神山地の菌類が生産する有用生理活性物質の探索. 北東北国立 3 大学連携推進研究プロジェクト成果報告会 (弘前大学), 2017.2.22
- f-04. 殿内暁夫：白神酵母の現状と展望. 平成 28 年度第 2 回白神酵母研究会 (弘前), 2017.2.24
- f-05. 殿内暁夫：地域の微生物を活用した弘前大学ブランドの創造. 青森ブランド価値創造研究報告会 (弘前大学), 2017.3.2
- f-06. 殿内暁夫：白神山地の酵母が青森の新しい味を作る. 東北・新潟のこだわり特産品ガイド 2017 特別号 (発酵食品特集), 東北活性化研究センター編 (2017)
- f-07. 殿内暁夫：白神の微生物を暴く～多様性・機能・利用まで～. 2017 年度・日本農芸化学会東北支部シンポジウム「多様な広がりて魅せる微生物研究」(弘前大学), 2017.6.24
- f-08. 殿内暁夫：白神微生物の可能性を探る. 平成 29 年度第 1 回白神酵母研究会 (弘前), 2017.7.27

橋本 勝

- a-01. Matsumoto, M., A. Ito, A. Tonouchi, M. Okazaki, M. Hashimoto: Stereochemical Correction and Total Structure of Roridin. *J. Tetrahedron*, **2017**; **73**: 5430–5435.
- a-02. Tanaka, S., Y. Honmura, S. Uesugi, E. Fukushi, K. Tanaka, H. Maeda, K. Kimura, T. Nehira, M. Hashimoto: Cyclohelminthol X, a Hexa-substituted Spirocyclopropane from *Helminthosporium velutinum* yone96: Structural Elucidation, Electronic Circular Dichroism Analysis, and Biological Properties. *J. Org. Chem.* **2017**; **82**: 5574–5582.
- a-03. Kusakabe, K., Y. Honmura, S. Uesugi, A. Tonouchi, H. Maeda, K. Kimura, H. Koshino, M. Hashimoto: Neomacrosporin X, a [4.4.3] Propellane-typed Meroterpenoid from *Trichoderma* sp. 1212-03. *J. Nat. Prod.* **2017**; **80**: 1484–1492.
- d-01. 竹田珠実・橋本 勝：Norleptoshol C の合成研究, 日本農芸化学会東北支部 151 大会 (鶴岡), 2016.10.09
- d-02. 日下部一晃・本村優奈・殿内暁夫・橋本 勝：新規 neomacrosporin 類の構造決定, 日本農芸化学会東北支部 151 大会 (鶴岡), 2016.10.09
- d-03. 田中静也・本村優奈・橋本 勝・福士江里：Cyclohelminthol X の構造, 日本農芸化学会東北支部 151 大会 (鶴岡), 2016.10.09
- d-04. 橋本 勝・日下部一晃・殿内暁夫・越野広雪：Neomacrosporin X の構造, 日本農芸化学会東北支部 151 大会 (鶴岡), 2016.10.09

岡) 2016.10.09

- d-05. 橋本 勝・日下部一晃・上杉祥太・本村優奈・殿内暁夫・木村賢一・前多隼人・越野広雪：[4.4.3]Propellane 型メロテルペン neomacrophorin X の構造, 第 59 回天然有機化合物討論会 (札幌), 2017.09.22
- d-06. 橋本 勝：Cyclohelminthol X の構造, 生理活性, 生合成, シンポジウム「天然物化学の新展開」(札幌), 2017.09.23
- f-02. Hashimoto M: Computer Assisted Structural Elucidation of Natural Products; neomacrophorin X and cyclohelminthol X, MSU Chemistry department seminar (2016.03.29, East Lansing).

吉田 孝

- a-01. Eisawa, H., S. Ogawa, N. Yamazaki, K. Maekawa, T. Yamaguchi, S. Sato, K. Shiota, T. Yoshida: Characterization of three fungal isomaltases belonging to glycoside hydrolase family 13 that do not show transglycosylation activity. *Journal of Applied Glycoscience*, 64: 9–13, 2017.
- f-01. 吉田 孝：ナマコ加工廃棄物を活用したヘルスケア商品の開発. 東経連ビジネスセンター・アライアンス助成事業第一期報告 (2017年9月)

坂元 君年

- a-01. DK. Inaoka, M. Iida, T. Tabuchi, T. Honma, N. Lee, S. Hashimoto, S. Matsuoka, T. Kuranaga, K. Sato, T. Shiba, K. Sakamoto, EO. Balogun, S. Suzuki, T. Nara, JR. Rocha, CA. Montanari, A. Tanaka, M. Inoue, K. Kita, S. Harada: The Open Form Inducer Approach for Structure-Based Drug Design. *PLoS One*. **11**: e0167078, 2016
- d-01. 葛西ひとみ・川村拓也・北 潔・坂元君年：Cryptosporidium parvum 由来ミトソーム type II NADH dehydrogenase の大腸菌での発現と阻害剤探索. 第 25 回分子寄生虫学ワークショップ/第 15 回分子寄生虫・マラリア研究フォーラム合同大会 (帯広畜産大学), 2017.
- d-02. 坂元君年・藤田 麗・Fevzi Daldal：広がるロドキノワールド. 第 11 回蠕虫研究会 (長崎市), 2017.

園木 和典

- a-01. Senda, M., N. Yamaguchi, M. Hiraoka, S. Kawada, R. Iiyoshi, T. Sonoki, H. Maeda, M. Kawasaki: Accumulation of proanthocyanidins and lignin deposition in buff-pigmented soybean seed coats may lead to frequent defective cracking. *Planta*. 245: 659–670, 2017.
- a-02. Kondo, S., K. Sugimura, Y. Okamura, K. Sato-Izawa, Y. Otsuka, M. Nakamura, S. Kajita, E. Masai, T. Sonoki, Y. Katayama: Stable chiral carboxymuconolactone production from a lignin-related aromatic compound, protocatechuic acid. *Fermentation technology*. 5 (3): 135–138, 2016.
- a-03. Otsuka Y, M. Matsuda, T. Sonoki, K. Sato-Izawa, B. Goodell, J. Jellison, H. Murata, M. Nakamura: The enzymatic activities of cell free extract from acidophilic *Burkholderia oxyphila* OX-01 catalyzes anaerobic oxidation at the C-4 position of (+)-catechin and (-)-epicatechin into (+)-taxifolin. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*. 80(12): 2473–2479, 2016.
- c-01. 園木和典：バクテリアによるリグニン由来芳香族化合物の分解と有用物質生産への利用. バイオマス由来の高機能材料, エヌ・ティー・エス出版. 2016.
- d-01. 園木和典・杉田晴佳・高橋健司・上村直史・政井英司：針葉樹リグニン分解物を唯一の炭素源とした糖質に依存しないムコン酸のバイオ生産. 日本生物工学会 2017 年大会 早稲田大学 (東京都) 2017 年 9 月 11–14 日
- d-02. 高橋健司・篠田英里・鈴木祥央・上村直史・園木和典・政井英司：糖質に依存しない広葉樹リグニン分解物からのムコン酸のバイオ生産. 日本生物工学会 2017 年大会 早稲田大学 (東京都) 2017 年 9 月 11–14 日.
- d-03. 尾形拓哉・栗本祐樹・園木和典：ムコン酸生産の律速反応である“protocatechuate decarboxylase”を活性化する因子の機能解明. 日本生物工学会 2017 年大会 早稲田大学 (東京都) 2017 年 9 月 11–14 日.
- d-04. 菊地晃弘・東 勇太・高橋健司・上村直史・政井英司・園木和典：アルカリ加水分解により得られる稲わらリグニン由来芳香族化合物を原料としたムコン酸のバイオ生産. 日本生物工学会 2017 年大会 早稲田大学 (東京都) 2017 年 9 月 11–14 日.
- d-05. 東 勇太・佐藤 匠・高橋健司・上村直史・政井英司・園木和典：木質系・草本系バイオマス由来のリグニン分解物を原料としたムコン酸生産. 日本生物工学会 2017 年大会 早稲田大学 (東京都) 2017 年 9 月 11–14 日.
- d-06. 飯村洋介・園木和典・羽部 浩：カワラタケラッカーゼの酵母による発現とその特性. 日本木材学会 2017 年大会 九州大学 (福岡県福岡市) 2017 年 3 月 18–20 日.

- d-07. 園木和典：リグニン由来の芳香族化合物を原料としたポリマー原料生産. 第26回日本MRS年次大会 横浜市開港記念会館(神奈川県横浜市) 2016年12月19-22日.
- e-01. 園木和典：平成27年度弘前大学若手・新任研究者支援事業実績報告書, 2017.
- e-02. 園木和典：科学研究費補助金報告書, 2017.
- f-01. 園木和典：バイオマスを原料とした有用物質の生産. ホワイトバイオ：リグニンからのムコン酸生産. 2017年度日本農芸化学会東北支部シンポジウム. 弘前大学(青森県弘前市) 2017年6月24日.
- f-02. 園木和典：リグニン由来フェノール類を原料としたムコン酸生産に向けて. JAMSTEC第4回深海バイオセミナー. JAMSTEC海洋生命理工学研究開発センター(神奈川県横須賀市) 2017年1月30日.
- f-03. 園木和典：弘前大学若手研究者シーズ紹介 No. 17～未利用資源を機能性ポリマーの原料へ～. 青い森しんきんトレンド情報. No. 458, p1.

濱田 茂樹

- a-01. Hamada, S., K. Kubota, M. Sagisaka: Purification and characterization of a novel extracellular neutral metalloprotease from *Cerrena albocinnamomea*. *J. Gen. Appl. Microbiol.*, **63**: 51-57 (2017).
- c-01. 濱田茂樹：糖質米の新たな簡易選抜法の開発と外観品質の向上. 地方創成に関わる生物工学の取り組み 地域生物資源産業化事例集 p.30, 2016 ISBN978-4-86487-586-8
- f-01. 濱田茂樹：米粉パンに適した米粉の性質とは? アグリ・カレッジ2017

【食料資源学科】

【食料バイオテクノロジーコース】

石川 隆二

- a-01. Brozynska, M., D. Copetti, A. Furtado, R. A. Wing, D. Crayn, G. Fox, R. Ishikawa, R. J. Henry: Sequencing of Australian wild rice genomes reveals ancestral relationships with domesticated rice. *Plant Biot. Jour.* **15**: 765-774, 2017.
- d-01. 山森晃一・田中克典・石川隆二・大森伸之介: RILからの戻し交雑を利用した‘恋ほのか’由来の胴割れ耐性と粒形のQTL解析. 第11回東北育種研究集会 11月12日(山形大学), 2016.
- d-02. 伊藤健吾・田中克典・石川隆二・大森伸之介: ‘華想い’×‘恋ほのか’のRILsにおける胴割れ耐性解析. 第11回東北育種研究集会 11月12日(山形大学), 2016.
- d-03. 笹森俊雅・伊藤健吾・田中克典・石川隆二・大森伸之介: 華想い×恋ほのかの自殖近交系における粒形解析. 第11回東北育種研究集会 11月12日(山形大学), 2016.
- d-04. 阿部晃之・石川隆二: 青森県の吟醸用品種‘華想い’ゲノム多型領域の解析. 第11回東北育種研究集会 11月12日(山形大学), 2016.
- d-05. Dinh, L. T., B.C.Bui, L. T. Nguyen, 石川隆二: ベトナムクーロンデルタ流域の多年生野生イネの集団構造. 第11回東北育種研究集会 11月12日(山形大学), 2016.
- d-06. 石川隆二: 琉球諸島カンキツ遺伝資源の評価: 次世代シーケンサーによるマーカー開発と在来種の評価. 第131回日本育種学会 3月29日(名古屋大学), 2017.
- d-07. 植村真郷・保木良太・西帯野翼・田浦 悟・佐藤雅志・石川隆二・一谷勝之: アジア栽培イネ *O. sativa* とオーストラリア野生イネ *O. meridionalis* の交雑後代に見出された部分不稔現象の遺伝子分析. 第131回日本育種学会 3月30日(名古屋大学), 2017.
- d-08. 菅原魁人・一谷勝之・石川隆二: *O. rubogon* と *O. meridionalis* が同所的に生息するオーストラリア野生イネ集団における自然交雑の検証. 第132回日本育種学会 10月8日(岩手大学), 2017.
- d-09. ディン ティ ラム・Chi Buu Bui・石川隆二: 次世代シーケンス情報によりベトナム野生イネからAS996に導入した領域の推定. 第132回日本育種学会 10月8日(岩手大学), 2017.
- f-01. 石川隆二: あおもり食のイノベーション. 1. なぜいま「食」か. 東奥日報 2017年4月7日
- f-02. 石川隆二: あおもり食のイノベーション. 2. 沖縄のシークワサー. うしなわれつつある多様性. 東奥日報 2017年4月14日
- f-03. 石川隆二: あおもり食のイノベーション. 3. 鹿児島, 沖縄の中型かんきつ. 在来種生物と共に移動. 東奥日報 2017年5月12日
- f-04. 石川隆二: あおもり食のイノベーション. 4. 熊本の香り米「もち万石」/念入りな種もみ選抜で在来種を維持. 東奥日報 2017年6月2日
- f-05. 石川隆二: あおもり食のイノベーション. 5. 菱の実. コメと一緒に移動か. 東奥日報 2017年6月15日
- f-06. 石川隆二: あおもり食のイノベーション. 6. 九州の菱. お茶や焼酎・・・活用多彩. 東奥日報 2017年7月7日
- f-07. 石川隆二: あおもり食のイノベーション. 7. タイの野生コメ. 3倍体品種改良に一役. 東奥日報 2017年7月14日
- f-08. 石川隆二: あおもり食のイノベーション. 8. タイの自生地保全. 守られる野生のイネ. 東奥日報 2017年8月4日
- f-09. 石川隆二: あおもり食のイノベーション. 9. ベトナム・クーロンデルタ. 野生イネ増殖 改良に一役. 東奥日報 2017年9月1日
- f-10. 石川隆二: あおもり食のイノベーション. 10. 豪の大規模稲作. 機構変動の影響強く. 東奥日報 2017年9月8日
- f-11. 石川隆二: あおもり食のイノベーション. 11. オーストラリアの果樹栽培. 大胆な栽培方法で大規模展開. 2017年10月6日
- f-12. 石川隆二: あおもり食のイノベーション. 12. パプアニューギニア・野生イネ. 農家の収入増へ研究. 東奥日報 2017年10月13日

千田 峰夫

- a-01. Senda, M., N. Yamaguchi, M. Hiraoka, S. Kawada, R. Iiyoshi, K. Yamashita, T. Sonoki, H. Maeda, M. Kawasaki:

Accumulation of proanthocyanidins and/or lignin deposition in buff-pigmented soybean seed coats may lead to frequent defective cracking. *Planta* **245**: 659–670, 2017.

- d-01. 千田峰生・山口直矢・平岡未帆・川田 聡・飯吉亮太・山下一騎・園木和典・前多隼人・川崎通夫：ダイズ褐色種皮の易裂皮性に関する研究. 日本育種学会第131回講演会(名古屋大学), 2017.

赤田 辰治

- d-01. 徳中 琢・赤田辰治・鳥丸 猛：ヤマモミジの紅葉におけるアントシアニン合成遺伝子群の発現変動ならびに紅葉の色合いと生態的環境要因との相関解析. 東北植物学会第6回宮城大会, 2016.
- d-02. 鳥丸 猛・塚本将司・赤田辰治：ブナ乾燥応答性遺伝子 FcMYB1603 の塩基多型の地理的変異. 第128回日本森林学会大会. 鹿児島, 2017.
- d-03. 赤田辰治・國嶋俊輔・鳥丸 猛：ブナ乾燥応答性遺伝子 FcMYB1603 の機能的解析. 第128回日本森林学会大会. 鹿児島, 2017.
- d-04. 福井忠樹・赤田辰治・鳥丸 猛：ブナのタンニン合成経路に働く傷害誘導遺伝子の解析. 第128回日本森林学会大会. 鹿児島, 2017.

柏木 明子

- d-01. Kashiwagi, A.: Rapid adaptation of RNA bacteriophage to environmental changes, シンポジウムタイトル：新機能分子系を創出してきた地球生物進化と試験管内進化の対話, 第55回日本生物物理学会年会(熊本市), 2017.
- d-02. 西向めぐみ・柏木明子・金濱 晶・山田美和：新規エーテル型リン脂質の微生物酵素による合成と生理機能の解明, 北東北女性研究者 研究・交流フェア2017(弘前市), 2017.
- d-03. 宮塚暢子・小林操妃・柏木明子：大腸菌の比増殖速度を指標とした高機能化Q β RNA複製酵素取得系の構築, 北東北女性研究者 研究・交流フェア2017(弘前市), 2017.
- d-04. 大野美紗・柏木明子・木村賢一：プロリルオリゴペプチダーゼ阻害物質プロペチンの大腸菌での生産系の検討, 北東北女性研究者 研究・交流フェア2017(弘前市), 2017.
- d-05. 柏木明子・角谷珠実・熊坂直也・熊谷知史・對馬(佐野)文恵：RNAバクテリオファージQ β の適応進化実験で見られた複数経路での適応, 日本進化学会 第19回大会(京都府), 2017.
- d-06. Kashiwagi, A., H. Kitamura, F. (Sano) Tsushima: Characterization of a single mutation in TraQ in a strain of *Escherichia coli* partially resistant to Q β infection, IUMS2017, Sands Expo & Convention Centre, Singapore, 2017.
- d-07. 西向めぐみ・柏木明子・山田美和：新規エーテル型リン脂質の微生物酵素による合成と生理機能の解明(盛岡市), 2017.
- d-08. 柏木明子：実験室内進化系でのRNAファージQ β の適応度進化, シンポジウムタイトル：バクテリアファージの最前線と展望, 第39回日本分子生物学会年会(神奈川県), 2016.
- d-09. 柏木明子：Q β ファージのRNA複製酵素に依存する宿主増殖系の確立, ファージ・環境ウイルス研究会合同シンポジウム, 神奈川県, 2016.
- d-10. 角谷珠実・熊谷知史・熊坂直也・菅原 竜・柏木明子：高温適応変異体Q β ファージの吸着速度定数の比較, ファージ・環境ウイルス研究会合同シンポジウム(神奈川県), 2016.
- d-11. 田中千景・山田滉介・竹内保浪・中田千賀子・柏木明子・戸羽隆宏：*Pseudomonas fluorescens*及び*Serratia liquefaciens*に感染する生乳由来バクテリオファージの性質, ファージ研究会, ファージ・環境ウイルス研究会合同シンポジウム(神奈川県), 2016.
- f-01. 柏木明子：高速で環境変化に適応するRNAウイルス, りんご王国こうぎょくカレッジ, FMアップルウェブ(弘前市), 2017.
- f-02. 柏木明子・園木和典・笹部美知子・坂元君年：生命動態解析から見た生物の理解と生物の利用, 平成28年度弘前大学機関研究成果発表, 2017.

田中 克典

- d-01. 嶋田玄太郎・Pervin, Mst. Naznin・西田英隆・門田有希・杉山充啓・田中克典・加藤謙司：GBS法を利用したメロン遺伝資源の多様性解析. 第8回中国地域育種談話会・第11回ムギ類研究会, 岡山大学資源植物科学研究所, 2016.
- d-02. 田中克典・宇田津徹朗・古賀達郎：イネプラント・オパール中に内在する遺伝情報抽出手法の実用化に向けた研

- 究(2報). 日本文化財科学会第34回大会・2017年総会, 東北芸術工科大学, 2017.
- d-03. 田中克典・嶋田玄太郎・Sophea, Yon・Sophany, Sakhan・友岡憲彦・加藤鎌司: カンボジア中央部・北部の在来メロンにおけるウリ科作物遺伝資源探索, 日本育種学会第132回講演会, 岩手大学, 2017.
- e-01. 田中克典: 油伝(2) 遺跡出土遺体DNA分析報告, 『油伝(2) 遺跡発掘調査報告書(弘前市教育委員会編)』. 260-269, 2016.
- e-02. Tanaka, K., T.T. Duong, H. Yamashita, S. Lay Heng, S. Sophany, K. Kato: Collection of Cucurbit crops (Cucurbitaceae) from Eastern Cambodia, 2015. Annual Report on Exploration and introduction Of Plant Genetic Resources in 2015, Annual Report on Exploration and Introduction of Plant Genetic Resources in 2015; 32: 109-137, 2017.
- f-01. Tanaka, K.: Current Condition of Cucurbitaceae crops in East-, Southeast- and South-Asia based on the field research. Workshop on “Conservation and Utilization of Traditionally Used Agricultural Crops”, Oak Ray Regency Hotel, Sri Lanka, 2017.
- f-02. 田中克典: 出土ウリの形状分析とDNA分析からわかること. 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター公開講座 考古学と関連科学『ウリとモモと人とのかかわり』, 岡山大学附属図書館, 2017.
- f-03. 田中克典: DNA の情報は東日本で稲作が定着する過程を提示することができるか? JSPS 科研費16H03503 「冷温帯地域における稲作の歴史的展開」ワークショップ「北東北の稲作文化再考」, 弘前大学人文社会科学部, 2017.

【食品科学コース】

戸羽 隆宏

- d-01. 田中千景・山田滉介・竹内保浪・中田千賀子・柏木明子・戸羽隆宏: *Pseudomonas fluorescens* および *Serratia liquefaciens* に感染する生乳由来バクテリオファージの性質. ファージ・環境ウイルス研究会合同シンポジウム(神奈川県横須賀市), 2016.
- d-02. 戸羽隆宏: 発酵乳の過去・現在・未来. 2017年度日本農芸化学会東北支部シンポジウム(弘前市), 2017.
- d-03. 戸羽隆宏: 発酵乳の過去・現在・未来. 平成29年度日本酪農科学シンポジウム(十和田市), 2017.
- d-04. 戸羽隆宏: 発酵乳の昔、今そして未来, 第4回保健科学研究発表会(弘前市), 2017.
- f-01. 戸羽隆宏: 牛乳・乳製品の話, 農学生命科学部公開講座(弘前市), 2016.

岩井 邦久

- b-01. 岩井邦久: 食べ物と健康, 食品の加工増補. 第5章 植物性食品の栄養と加工, C豆類, 種実類; F藻類. 南江堂 ISBN: 978-4-524-25607-5, p.127-132, p.138-140, 2016年.
- b-02. 岩井邦久: カレント食べ物と健康1: 食品の化学と機能. 第5章 食品の三次機能. 建帛社 ISBN: 978-4-7679-0594-5, p.141-170, 2017年.
- b-03. 岩井邦久: カレント食べ物と健康2: 食品の成分と加工. 第3章 植物性食品の成分とその加工, 8. 藻類. 建帛社 ISBN: 978-4-7679-0595-2, p.76-79, 2017年.
- c-01. 岩井邦久・柴田修助: 「アピオス」の機能性研究と食品利用. FOOD Style21, 21: 47-50, 2017.
- e-01. 岩井邦久・山下久美子・高田誓昌: 脂質蓄積抑制作用を有する食資源の作用解明と食品開発に関する研究. 産学連携研究最終報告書(平成27~28年度), p.1-33, 2017.
- e-02. 岩井邦久: ホヤの機能性研究. 平成28年度青森市受託研究報告書, p.1-55, 2017.
- e-03. 岩井邦久・山下久美子・高田誓昌: 脂質蓄積抑制作用と食品開発に関する研究. 青森県立保健大学研究推進知的財産センター年報2016, 2017.
- e-04. 岩井邦久・吉岡美子・井澤弘美: 平成28年度地域食材の特産化活動を介した地域コミュニケーションの発展事業報告書, 2017年.
- f-01. 岩井邦久: 陸奥湾産マボヤの栄養と味. ホヤ・セミナー, 青森市, 2017年1月.

中島 晶

- d-01. Nakajima A.: Anti-dementia effects of nobiletin, a citrus flavonoid, in mouse models of Alzheimer's disease. The 2nd International Symposium on Innovations in Plant and Food Sciences (University of Saskatchewan, Canada), 2017.

- d-02. 祖父江颯・伊藤教道・羽田和弘・中島 晶・村上由希・毛利彰宏・山本康子・鍋島俊隆・齋藤邦明・永井 拓・山田清文：アストログリアにおけるMHCIの発現とその行動学的・神経病理学的影響. 第47回日本神経精神薬理学会(札幌), 2017.

佐藤 之紀

- a-01. Sato, Y.: A modified American Association of Cereal Chemists method for compressive force value determination of white bread crumb firmness. *Food Science and Technology Research*, **22**: 443–450, 2016.
- d-01. 佐藤之紀・邱 泰瑛・宮脇長人：塩化ナトリウムを含む高分子水溶液の極限粘度とみかけの粘度の解析. 日本農芸化学会2017年度大会(京都), 2017.
- d-02. 佐藤之紀・宮脇長人：粘度B係数と部分モル比容から求めた水溶液中のトリマーの水和数. 日本食品工学会第18回(2017年度)年次大会(大阪). (64), 2017.
- d-03. 佐藤之紀・野村詩織：American Association of Cereal Chemists (AACC) 変法を用いたトースト表面とトースト内部の力学物性値. 日本食品科学工学会第64回大会(藤沢). (100), 2017.
- d-04. 佐藤之紀・野村詩織：American Association of Cereal Chemists変法を用いたトースト表面と内部の力学物性値と官能評価値の関係. 一般社団法人日本調理科学会平成29年度大会(東京). (44), 2017.

前多 隼人

- a-01. Matsumoto, K., H. Maeda, T. Fujita, S. Sato, Y. Shiozaki: Apple breeding programs at Hirosaki University, Japan: yellow skin, red flesh, and large size. *Acta Hort.* 1127. ISHS 2016. **1**: 29–33, 2016.
- a-02. Senda, M., N. Yamaguchi, M. Hiraoka, S. Kawada, R. Iiyoshi, K. Yamashita, T. Sonoki, H. Maeda, M. Kawasaki: Accumulation of proanthocyanidins and/or lignin deposition in buff-pigmented soybean seed coats may lead to frequent defective cracking. *Planta*. **245**: 659–670, 2017.
- a-03. Nakagawa, K., H. Maeda: EPR imaging and HPLC characterization of the pigment-based organic free radical in black soybean seeds. *Free Radical Research*. **51**: 187–192, 2017.
- a-04. Maeda, H., R. Hosomi, M. Fukuda, Y. Ikeda, M. Yoshida, K. Fukunaga: Dietary tuna dark muscle protein attenuates hepatic steatosis and increases serum high-density lipoprotein cholesterol in obese type-2 diabetic/obese KK-A^y mice. *Journal of Food Science*. **82**: 1231–1238, 2017.
- a-05. Kusakabe, K., Y. Honmura, S. Uesugi, A. Tonouchi, H. Maeda, K. Kimura, H. Koshino, M. Hashimoto: Neomacrophorin X, a [4.4.3] propellane-type meroterpenoid from *Trichoderma* sp. 1212-03. *Journal of Natural Products*. **80**: 1484–1492, 2017.
- a-06. Nakagawa, K., H. Maeda: Investigating pigment radicals in black rice using HPLC and multi-EPR. *Journal of Oleo Science*. **66**: 543–547, 2017.
- a-07. Tanaka, S., Y. Honmura, S. Uesugi, E. Fukushi, K. Tanaka, H. Maeda, K. Kimura, T. Nehira, M. Hashimoto: Cyclohelminthol X, a hexa-substituted spirocyclopropane from *Helminthosporium velutinum* yone96: structural elucidation, electronic circular dichroism analysis, and biological properties. *The Journal of Organic Chemistry*. **82**: 5574–5582, 2017.
- a-08. Terasaki, M., H. Maeda, K. Miyashita, T. Tanaka, S. Miyamoto, M. Mutoh: A marine bio-functional lipid, fucoxanthinol, attenuates human colorectal cancer stem-like cell tumorigenicity and sphere formation. *Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition*. 2017: 1–8, 2017.
- a-09. Hosomi, R., H. Maeda, Y. Ikeda, Y. Toda, M. Yoshida, K. Fukunaga: Differential effects of cod proteins and tuna proteins on serum and liver lipid profiles in rats fed mon-cholesterol- and cholesterol-containing diets. *Preventive Nutrition and Food Science*. **22**: 90–99, 2017.
- a-10. Nanashima, N., K. Horie, M. Chiba, M. Nakano, H. Maeda, T. Nakamura: Anthocyanin-rich blackcurrant extract inhibits proliferation of the MCF10A healthy human breast epithelial cell line through induction of G0/G1 arrest and apoptosis. *Molecular Medicine Reports*. **16**: 6134–6141, 2017.
- c-01. 前多隼人：オレオサイエンス第16巻第10号 油脂関連情報 Inform, Vol.27, No.5 (2016). 日本油化学会: 500, 2016.
- c-02. 前多隼人：オレオサイエンス第16巻第11号 油脂関連情報 Inform, Vol.27, No.6 (2016). 日本油化学会: 544, 2016.
- c-03. 前多隼人：オレオサイエンス第16巻第12号 油脂関連情報 Inform, Vol.27, No.7 (2016). 日本油化学会: 613, 2016.
- c-04. 前多隼人：オレオサイエンス第17巻第2号 油脂関連情報 Inform, Vol.27, No.8 (2016). 日本油化学会: 98, 2017.
- c-05. 前多隼人：オレオサイエンス第17巻第3号 油脂関連情報 Inform, Vol.27, No.9 (2016). 日本油化学会: 158, 2017.

- c-06. 前多隼人：オレオサイエンス第17巻第4号 油脂関連情報 Inform, Vol.27, No.10 (2016). 日本油化学会: 195, 2017.
- c-07. 前多隼人：オレオサイエンス第17巻第6号 油脂関連情報 Inform, Vol.28, No.1 (2017). 日本油化学会: 278, 2017.
- c-08. 前多隼人：オレオサイエンス第17巻第7号 油脂関連情報 Inform, Vol.28, No.2 (2017). 日本油化学会: 337, 2017.
- c-09. 前多隼人：オレオサイエンス第17巻第8号 油脂関連情報 Inform, Vol.28, No.3 (2017). 日本油化学会: 404, 2017.
- c-10. 前多隼人：オレオサイエンス第17巻第9号 油脂関連情報 Inform, Vol.28, No.4 (2017). 日本油化学会: 457, 2017.
- c-11. 前多隼人・小館めい・三上翔平：アグリバイオ2017年4月号 カロテノイドの機能性とその吸収に対する食品成分の影響. 株式会社ニューサイエンス社: 66-71, 2017.
- c-12. 前多隼人・小館めい・三上翔平：アグリバイオ2017年7月号 カロテノイドの機能性とその吸収に対する食品成分の影響. 株式会社ニューサイエンス社: 82-86, 2017.
- d-01. 石川春奈・福田麻理・松本和浩・前多隼人：赤肉新品種リンゴの皮と果肉の機能性成分評価. 日本食品科学工学会平成28年度東北支部大会(秋田), 2016.
- d-02. 小館めい・西山広亮・前多隼人：カシスアントシアニンによるKK-A^yマウスおよびRAW 264.7細胞での慢性炎症抑制作用. 日本農芸化学会2017年度大会(京都女子大学), 2017.
- d-03. 三上翔平・西野 梓・鷹羽武史・眞岡孝至・前多隼人：パプリカキサントフィルによる脂肪細胞での慢性炎症状態の改善作用. 日本農芸化学会2017年度大会(京都女子大学), 2017.
- d-04. 細見亮太・前多隼人・吉田宗弘・福永健治：クロマグロ血合肉タンパク質の摂取はKK-A^yマウスの脂肪肝抑制および高密度リポタンパク質コレステロール濃度を上昇させる. 平成29年度日本水産学会春季大会(東京海洋大学), 2017.
- d-05. 千田峰生・山口直矢・平岡未帆・川田 聡・飯吉亮太・山下一騎・園木和典・前多隼人・川崎通夫：ダイズ褐色種子の易裂皮性に関する研究. 日本育種学会2017年度春季大会(名古屋大学), 2017.
- d-06. 池田祐生・福田雄一・細見亮太・前多隼人・赤田 将・吉田宗弘・福永健治：赤身および白見魚由来タンパク質の摂取が肥満/2型糖尿病ob/obマウスの脂質代謝に及ぼす影響. 第71回日本栄養・食糧学会大会(沖縄コンベンションセンター), 2017.
- d-07. 前多隼人・三上翔平・穂苺早織・西野 梓・鷹羽武史・眞岡孝至：パプリカキサントフィルによる脂肪細胞での脂質代謝・糖代謝改善作用. 第71回日本栄養・食糧学会大会(沖縄コンベンションセンター), 2017.
- d-08. 七島直樹・堀江香代・冨澤登志子・北島麻衣子・藤田俊文・前多隼人・加藤陽治：エストロゲン受容体 α を介したカシスアントシアニンのフィトエストロゲン活性. 第71回日本栄養・食糧学会大会(沖縄コンベンションセンター), 2017.
- d-09. 橋本 勝・日下部一晃・上杉祥太・本村優奈・殿内暁夫・木村賢一・前多隼人・越野広雪：[4.4.3]Propellane型メロテルペン neomacrophorin X の構造. 第12回化学生態学研究会(函館市), 2017.
- d-10. 前多隼人・川畑咲絵・齋藤知明：難消化性米タンパク質プログルテリンを含む「華さやか」による内臓脂肪蓄積抑制作用. 日本食品科学工学会第64回大会(日本大学湘南キャンパス), 2017.
- d-11. 齋藤知明・川畑咲絵・前多隼人：難消化性の米タンパク質プログルテリンの消化性とコレステロール吸着性. 日本食品科学工学会第64回大会(日本大学湘南キャンパス), 2017.
- d-12. 三上翔平・穂苺早織・西野 梓・鷹羽武史・眞岡孝至・前多隼人：パプリカキサントフィルによる脂肪細胞での慢性炎症状態の改善作用. 第56回日本油化学会年会(東京理科大学神楽坂キャンパス), 2017.
- d-13. 小館めい・西山広亮・前多隼人：カシスアントシアニンによるKK-A^yマウスおよびRAW264.7細胞での慢性炎症抑制作用. 第56回日本油化学会年会(東京理科大学神楽坂キャンパス), 2017.
- d-14. 中川公一・前多隼人：黒大豆のX-バンド ESR イメージングとHPLCによる研究. 第56回日本油化学会年会(東京理科大学神楽坂キャンパス), 2017.
- d-15. 前多隼人・三上翔平・穂苺早織・西野 梓・鷹羽 武・眞岡孝至：パプリカキサントフィルによる脂肪細胞での慢性炎症状態の改善作用. 第31回カロテノイド研究談話会(京都薬科大学), 2017.
- f-01. 前多隼人：ごぼうを食べて肥満予防と美肌効果が若返り, 弘前大学八戸サテライト主催 食育健康セミナー講師(三沢市), 2016.
- f-02. 前多隼人：カシスアントシアニンの体内への吸収性と肥満による慢性炎症疾患の改善作用, (一社)日本カシス協会 第3回総会(東京都), 2017.
- f-03. 前多隼人：北国の農林水産物を活用した健康寿命向上のための食のイノベーション, JST フェア2017若手連携研究ファンドシンポジウム(東京都), 2017.

【食料生産環境コース】

青山 正和

- d-01. Aoyama, M.: Characterization of organic matter in density-size fractions of soil aggregates by DRIFT spectroscopy combined with sodium hypochlorite oxidation. ASA, CSSA & SSSA International Annual Meetings 2016 (Phoenix, USA), 2016.
- d-02. 佐藤 敦・河合成直・祝 延成・徐 安凱・郭 晞明・服部浩之・頼 泰樹・青山正和：幻の報告書—満州国アルカリ地帯調査報告（康德7年）—。日本土壤肥料学会2017年度仙台大会（東北大学），2017.
- d-03. Aoyama, M.: Extracellular proteins produced by soil microorganisms during the decomposition of plant materials. 6th International Symposium on Soil Organic Matter (Harpenden, U.K.), 2017.

佐野 輝男

- a-01. Kaponi, M.S., E.K. Vellios, K.S. Fillipou, T. Sano: Viral pathogens occurring in fig-mosaic diseased trees in Greece. PSJ Plant Virus Disease Workshop Report (special edition) **12**: 30–42, 2016.
- a-02. Suzuki, T., M. Fujibayashi, T. Hataya, A. Taneda, Y-H. He, T. Tsushima, G.S. Duraisamy, K. Siglová, J. Matoušek, T. Sano: Characterization of host-dependent mutations of Apple fruit crinkle viroid replicating in newly identified experimental hosts suggests maintenance of stem-loop structures in the left-hand half of the molecule is important for replication. J. Gen. Virol. **98**: 506–516, 2017.
- a-03. Matoušek, J., K. Siglová, J. Jakše, S. Radišek, R.J. Brass Joseph, T. Tsushima, T. Guček, G.S. Duraisamy, T. Sano, G. Steger: Propagation and some physiological effects of Citrus bark cracking viroid and Apple fruit crinkle viroid in multiple infected hop (*Humulus lupulus* L.). J. Plant Physiol. **213**: 166–177, 2017.
- a-04. Kasai, H., T. Ito, T. Sano: Symptoms and molecular characterization of apple dimple fruit viroid isolates from apples in Japan. J. Gen. Pl Pathol. **83**: 268–272, 2017.
- a-05. Adkar-Purushothama, C.R., G. Chennappa, K. Poornachandra Rao, M.Y. Sreenivasa, P.K. Maheshwar, M.N. Nagendra Prasad, T. Sano: Molecular diversity among viroids infecting chrysanthemum in India. Virus Genes **53**: 636–642, 2017.
- b-01. Hadidi, A., G. Vidalakis, T. Sano: Economic significance of fruit tree and grapevine viroids, Chapter 2, pp.15–25. in Viroids and Satellites (Eds. Hadidi, A. et al.) Academic Press, ISBN 978-0 12-801498-1, 2017.
- b-02. Di Serio, F., S-F. Li, V. Pallas, R.A. Owens, J.W. Randles, T. Sano, J.Th.J. Verhoeven, G. Vidalakis, R. Flores: Viroid taxonomy, Chapter 12, pp.135–146. in Viroids and Satellites (Eds. Hadidi, A. et al.) Academic Press, ISBN 978-0 12-801498-1, 2017.
- b-03. Hataya, T., T. Tsushima, T. Sano: Hop stunt viroid, Chapter 19, pp. 199–210. in Viroids and Satellites (Eds. Hadidi, A. et al.) Academic Press, ISBN 978-0 12-801498-1, 2017.
- b-04. Di Serio, F., E.M. Torchetti, R. Flores, T. Sano: Other apscaviroid infecting pome fruit trees, Chapter 22, pp.229–241. in Viroids and Satellites (Eds. Hadidi, A. et al.) Academic Press, ISBN 978-0 12-801498-1, 2017.
- b-05. Parakh, D.B., S. Zhu, T. Sano: Geographical distribution of viroids in South, Southeast and East Asia, Chapter 47, pp. 507–518. in Viroids and Satellites (Eds. Hadidi, A. et al.) Academic Press, ISBN 978-0 12-801498-1, 2017.
- d-01. 対馬大希・佐野輝男：ジャガイモやせいもウイルスのトマトに対する弱毒性を特徴づける塩基変異の評価 平成29年度日本植物病理学会大会 4月28日，盛岡市（アイーナ），2017.
- d-02. 鈴木貴大・藤林美里・種田晃人・畑谷達児・佐野輝男：リンゴゆず果ウイルスホップ分離株及びカキ分離株のトマトでの病原性解析 平成29年度日本植物病理学会大会 4月28日，盛岡市（アイーナ），2017.
- d-03. 池田 翔・葛西厚史・種田晃人・奥田真生・鈴木貴大・佐野輝男：トマトのDCL2とDCL4はジャガイモやせいもウイルス（PSTVd）の初期増殖と病徴発現を抑制する 平成29年度日本植物病理学会大会 4月28日，盛岡市（アイーナ），2017.
- d-04. 猫塚修一・田中和明・佐野輝男：リンゴ樹上で越冬する炭疽病菌 *Colletotrichum acutatum* の生活環 平成29年度日本植物病理学会大会 4月28日，盛岡市（アイーナ），2017.
- d-05. 鈴木貴大・藤林美里・畑谷達児・佐野輝男：リンゴゆず果ウイルスホップ分離株のトマトにおける病原性解析 平成29年度日本植物病理学会東北部会 9月28日，弘前市（弘前大学農学生命科学部），2017.
- d-06. 佐野輝男・鈴木貴大・藤林美里：ウイルス感染で生じる壞疽症状について 平成29年度日本植物病理学会東北部会 9月28日，弘前市（弘前大学農学生命科学部），2017.

田中 和明

- a-01. Hyde, K.D., S. Hongsanan, R. Jeewon, D.J. Bhat, E.H.C. McKenzie, E.B.G. Jones, R. Phookamsak, H.A. Ariyawansa, S. Boonmee, Q. Zhao, F.A. Abdel-Aziz, M.A. Abdel-Wahab, S. Banmai, P. Chomnunti, B.K. Cui, D.A. Daranagama, K. Das, M.C. Dayarathne, N.I. de Silva, A.J. Dissanayake, M. Doilom, A.H. Ekanayaka, T.B. Gibertoni, A. Góes-Neto, S.K. Huang, S.C. Jayasiri, R.S. Jayawardena, S. Konta, H.B. Lee, W.J. Li, C.G. Lin, J.K. Liu, Y.Z. Lu, Z.L. Luo, I.S. Manawasinghe, P. Manimohan, A. Mapook, T. Niskanen, C. Norphanphoun, M. Papizadeh, R.H. Perera, C. Phukhamsakda, C. Richter, A.L.C.M. de A. Santiago, E.R. Drechsler-Santos, I.C. Senanayake, K. Tanaka, T.M.D.S. Tennakoon, K.M. Thambugala, Q. Tian, S. Tibpromma, B. Thongbai, A. Vizzini, D.N. Wanasinghe, N.N. Wijayawardene, H.X. Wu, J. Yang, X.Y. Zeng, H. Zhang, J.F. Zhang, T.S. Bulgakov, E. Camporesi, A.H. Bahkali, M.A. Amoozegar, L.S. Araujo-Neta, J.F. Ammirati, A. Baghela, R.P. Bhatt, D. Bojantchev, B. Buyck, G.A. da Silva, C.L.F. de Lima, R.J.V. de Oliveira, C.A.F. de Souza, Y.C. Dai, B. Dima, T.T. Duong, E. Ercole, F. Mafalda-Freire, A. Ghosh, A. Hashimoto, S. Kamolhan, J.C. Kang, S.C. Karunarathna, P.M. Kirk, I. Kytovuori, A. Lantieri, K. Liimatainen, Z.Y. Liu, X.Z. Liu, R. Lücking, G. Medardi, P.E. Mortimer, T.T.T. Nguyen, I. Promptutha, K.N.A. Raj, M.A. Reck, S. Lumyong, S.A. Shahzadeh-Fazeli, M. Stadler, M.R. Soudi, H.Y. Su, T. Takahashi, N. Tangthirasunun, P. Uniyal, Y. Wang, T.C. Wen, J.C. Xu, Z.K. Zhang, Y.C. Zhao, J.L. Zhou, L. Zhu: Fungal diversity notes 367-490: taxonomic and phylogenetic contributions to fungal taxa. *Fungal Diversity* **80**: 1-270, 2016.
- a-02. Watanabe, K., M. Sekiguchi, T. Sato, T. Hsiang, S. Kaneko, K. Tanaka, M. Kanda, N. Fujita, S. Nozawa: Phylogenetic analysis of the synnema-producing genus *Synnemapestaloides*. *Journal of Fungi* **2**: 28 (1-10), 2016.
- a-03. Ariyawansa, H.A., K.D. Hyde, K. Tanaka, S.S.N. Maharachchikumbura, A.M. Al-Sadi, A.M. Elgorban, Z.Y. Liu: Additions to Karst Fungi 3: *Prosthemium sinense* sp. nov., from Guizhou Province, China. *Phytotaxa* **284**: 281-291, 2016.
- a-04. 佐藤豊三・小野 剛・田中和明・服部 力：小笠原諸島の樹木類等より分離された菌類. *日本微生物資源学会誌* **32**: 163-178, 2016.
- a-05. Mochizuki, K., T. Nishida, K. Murata, K. Ishida, A. Sunada, S. Asari, K. Ohkusu, K. Tanaka: *Roussioella solani* causing keratomycosis, with an observed both sexual and asexual morphs. *Journal of Infection and Chemotherapy* **23**: 651-654, 2017.
- a-06. Gross, A., L. Beenken, V. Dubach, V. Queloz, K. Tanaka, A. Hashimoto, O. Holdenrieder: *Pseudodidymella fagi* and *Petrakia deviata*: Two closely related tree pathogens new to central Europe. *Forest Pathology*, DOI: 10.1111/efp.12351, 2017.
- a-07. Tanaka, S., Y. Honmura, S. Uesugi, E. Fukushi, K. Tanaka, H. Maeda, K. Kimura, T. Nehira, M. Hashimoto: Cyclohelminthol X, a Hexa-Substituted Spirocyclopropane from *Helminthosporium velutinum* yone 96: Structural Elucidation, Electronic Circular Dichroism Analysis, and Biological Properties. *The Journal of Organic Chemistry* **82**: 5574-5582, 2017.
- a-08. Hashimoto, A., M. Matsumura, K. Hirayama, K. Tanaka: Revision of Lophiotremataceae (Pleosporales, Dothideomycetes): Aquasubmersaceae, Cryptocoryneaceae, and Hermatomycetaceae fam. nov. *Persoonia* **39**: 51-73, 2017.
- a-09. Hashimoto, A., M. Matsumura, K. Hirayama, R. Fujimoto, K. Tanaka: Pseudodidymellaceae fam. nov.: Phylogenetic affiliations of mycopappus-like genera in Dothideomycetes. *Studies in Mycology* **87**: 187-206, 2017.
- b-01. 田中和明：クロイボタケ：ビックリ箱から飛び出します, pp. 56, 57; 橋本陽・田中和明：ヒゲとまつげを持つカビ シュードラクネラ *Pseudolachnella*, pp. 66, 67. 日本菌学会編「驚きの菌ワールド 菌類の知られざる世界」. 東海大学出版部, ISBN 978-4-486-02136-0, 2017.
- d-01. 猫塚修一・田中和明・佐野輝男：リンゴ樹上で越冬する炭疽病菌 *Colletotrichum acutatum* の生活環. 平成29年度日本植物病理学会大会 (岩手県, アイーナ・いわて県民情報交流センター), 2017.
- d-02. Miller, A.N., M. Réblová, N.P. Nguyen, T. Warnow, C.L. Schoch, W. de Beer, P.W. Crous, T.A. Duong, A. Ferrer, A. Hashimoto, M. Hernández-Restrepo, V. Hubka, S.M. Huhndorf, W. Jaklitsch, Å. Kruys, E. Kuhnert, L. Lombard, J.J.D. Luangsa-ard, J. Luo, Y. Marin-Felix, M. Matsumura, H.A. Raja, A.Y. Rossman, J. Sakayaroj, K. Seifert, C.A. Shearer, M. Stadler, A.M. Stchigel, V. Štěpánek, S. Sueterong, K. Tanaka, H. Voglmayr, L. Wendt, B.D. Wingfield, M.J. Wingfield, N. Zhang: Overview of Sordariomycetes. IX Latin American Congress of Mycology (Lima, Peru), 2017.

- d-03. 橋本 陽・高橋勇人・平山和幸・田中和明：広義 *Lophiostoma bipolare* の分子系統学的考察. 環境微生物系学会合同大会 2017 (宮城県, 東北大学), 2017.
- d-04. 高橋拓雅・橋本 陽・平山和幸・田中和明：*Massariosphaeria typhicola* の分類学的再検討 (2). 環境微生物系学会合同大会 2017 (宮城県, 東北大学), 2017.
- d-05. 荒山恭誠・橋本 陽・田中和明：広義 *Teichospora* 属の分類学的再検討. 環境微生物系学会合同大会 2017 (宮城県, 東北大学), 2017.
- d-06. 松村美里・加藤 航・橋本 陽・高橋由紀子・白水 貴・田中和明：ブナに寄生する *Asteromassaria* 様菌類の分類学的検討. 環境微生物系学会合同大会 2017 (宮城県, 東北大学), 2017.
- d-07. 橋本 陽・佐々木幸江・原田幸雄・田中和明：ハクウンボク環紋病 (新称) の発生. 第 53 回日本植物病理学会東北部会 (青森県, 弘前大学), 2017.

松山 信彦

- a-01. Matsuyama, N., H. Fujisawa, C. Kato, C. Sasaki, M. Saigusa: Contrasting Soil Properties of Allophanic and Non-allophanic Horizons of Volcanic Ash Soil in Tohoku District, Japan. *J. of Agriculture and Environmental Science*, 2017. (in press)
- a-02. Li, S., C. Sasaki, C. Kato, N. Matsuyama, T. Annaka, A. Endo, K. Sasaki: Reducing cadmium and copper uptake of soybeans by controlling groundwater level and its impacts on growth and yield. *IJERD*, Vol.8, 2017. (in press)
- a-03. Sasaki, K., C. Sasaki, C. Kato, T. Annaka, N. Matsuyama: Effects of the Percolation Patterns and the Thickness of Soil Dressing on Reducing Cadmium Uptake and Growth and Yields of Rice Plants (*Oryza Sativa* L.), *Journal of Environmental Science and Engineering*, **A5**: 259–266, 2016.
- a-04. Hossain, Md. B., N. Matsuyama, M. Kawasaki: Hydathode morphology and role of guttation in excreting sodium at different concentrations of sodium chloride in eddo. *Plant Production Science*, **19**: 528–539, 2016.
- a-05. Sasaki, K., C. Sasaki, N. Matsuyama, C. Kato, F. Jinhun, A. Endo: Studies on reducing cadmium uptake of rice plants by both soil dressing and mixing tillage. *International Journal of Environmental and Rural Development*, 7-1, 6–14, 2016.
- b-01. 佐々木長市・松山信彦：白神学入門<2017>, 白神山地の土壌. 弘前大学出版会：p.58–62, 2017年
- d-01. 松山信彦・端村由貴人・藤澤春樹・加藤千尋・佐々木長市：硝酸態窒素が草型の異なる水稻の生育・収量に及ぼす影響—閉鎖浸透水田模型を用いた検討—. 2017年日本土壌肥料学会講演会 (仙台), 2017.
- d-02. 松山信彦：一点紅の品種特性. 第9回全国マコモサミット in 越前 (福井県丹生郡越前町), 2016.
- d-03. Li, S., C. Sasaki, C. Kato, N. Matsuyama, T. Annaka, A. Endo, K. Sasaki: Reducing cadmium and copper uptake of soybeans by controlling groundwater level and its impacts on growth and yield. 8th International Conference of Environmental and Rural Development, Nonthaburi. 2017.

金児 雄

- a-01. Suang, S., M. Manaboon, T. Singtripop, K. Hiruma, Y. Kaneko, P. Tiansawat, P. Neumann, P. Chantawannakul. Larval diapause termination in the bamboo borer, *Omphisa fuscidentalis*. *PLoS ONE*, **12**, (4): e0174919, doi: org/10.1371/journal.pone.0174919. 2017.
- a-02. Suang, S., T. Singtripop, Chantawannakul, K. Hiruma, Y. Kaneko, M. Manaboon. Cloning and Developmental Expression of Methoprene-tolerant (Met) in Diapausing Larvae of Bamboo Borer, *Omphisa fuscidentalis* Hampson. *Chiang Mai J. Sci.* in press.
- d-01. 金児 雄・高木圭子・比留間潔：Verson's gland の蛹コミットメントにおける Broad-complex の制御機構. 日本蚕糸学会 (農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター), 2017.
- d-02. 吉戸敦生・金児 雄・佐原 健：カイコは第2染色体1本でも生きていけるのか? . 日本蚕糸学会 (農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター), 2017.
- d-03. 由利昂大・金児 雄・佐原 健：幼若ホルモンによるカイコ無核精子産生の抑制効果. 日本蚕糸学会 (農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター), 2017.
- d-04. 金児 雄・高木圭子・比留間潔：幼若ホルモンによる Verson's gland 蛹コミットメント抑制作用の分子機構. 日本応用動物昆虫学会 (東京農工大学), 2017.
- d-05. Kaneko, Y., K. Hiruma. Target of Rapamycin (TOR) induces the cell death commitment of Verson's gland of *Bombyx mori*. 3rd International Insect Hormone (21th Ecdysone) Workshop (Nasu, Japan). 2017.

- d-06. Takaki, K., Y. Kaneko, M. Paroulek, K. Hiruma, E. Kotani, H. Mori, M. Jindra. Effects of starvation on the telotrophic ovariole of *Tribolium castaneum*. 3rd International Insect Hormone (21th Ecdysone) Workshop (Nasu, Japan). 2017.
- f-01. 金児 雄：華麗な変身をする昆虫の謎, ひろだいナビゲートキャラバン in 函館, 2017.

【国際園芸農学科】

【園芸農学コース】

荒川 修

- a-01. Arakawa, O., S. Kikuya, P. Pungpomin, S. Zhang and N. Tanaka: Accumulation of anthocyanin in apples in response to blue light at 450 nm: recommendations for producing quality fruit color under global warming. *Eur. J. Hortic. Sci.* 81(6): 297-302 2016
- b-01. 荒川 修：第2章 イタリア・南チロルにおけるリンゴの生産と販売 ―その強さの背景とイタリアから学ぶこと―カーペンター・ビクター／黄孝春／神田 健策 編著 グローバル下のリンゴ産業 ―世界と青森―弘前大学出版会 ISBN 978-4-907192-48-8 P35-44. 2017
- d-01. Arakawa, O., P. Pungpomin, S. An, and N. Tanaka: Effect of blue light on red color development and anthocyanin accumulation of sweet cherries. VIII International Cherry Symposium in Yamagata (山形市). 2017
- d-02. 安 松浩・荒川 修・張 樹槐・田中紀充: サクラ‘ソメイヨシノ’花弁の着色に関する研究. 園芸学会 (日本大学). 園学研, 16別1: 434, 2017.
- d-03. 田中紀充・小島夏実・岸 優花・松本省吾・小森貞男・荒川 修: リンゴの中心と側果の違いが果形に及ぼす影響. 園芸学会 (日本大学). 園学研, 16別1: 69, 2017.

鈴木 裕之

- a-01. Fang, J.C., Y. Cao, M. Matsuzaki, H. Suzuki, H. Kimura: Effects of apple pomace-mixed silage on growth performance and meat quality in finishing pigs. *Anim. Sci. J.*, 87: 1516-1521, 2016.
- a-02. 鈴木裕之: 哺乳動物卵における微小管, マイクロフィラメントならびに中間径線維の分布と機能. 東北畜産学会報 66 (3): 41-51, 2017
- d-01. 松崎正敏・木下結貴・小倉 亮・齋藤知明・房家シン・鈴木裕之: リンゴ粕サイレージ給与で生産したラム肉の香り成分について. 日本綿羊研究会第61回大会 (宮内庁御料牧場, 高根沢町), 2016.10.
- d-02. 鈴木裕之・金 海燕・房家シン・松崎正敏: 成熟中のハムスター卵母細胞におけるNeurofilament (NF) サブユニットの局在と機能. 日本畜産学会第122回大会 (神戸大学, 神戸市), 2017.3.
- d-03. 松崎正敏・竹内紫穂・木村 中・房家シン・鈴木裕之: Difuctose Anhydride 3 (DFA3) の添加給与がめん羊の糖代謝に及ぼす影響. 日本畜産学会第122回大会 (神戸大学, 神戸市), 2017.3.
- d-04. 鈴木裕之・高田裕貴・房家シン・松崎正敏: 成熟中のハムスター卵母細胞におけるグリア線維性酸性タンパク質の局在と機能. 東北畜産学会第67回青森大会 (県民福祉プラザ 県民ホール, 青森市), 2017.8.
- d-05. 梅木直哉・姜 東鎮・鈴木裕之・松崎正敏: リンゴジュース粕を混合した飼料イネ WCS の発酵品質が嗜好性に及ぼす影響. 東北畜産学会第67回青森大会 (県民福祉プラザ 県民ホール, 青森市), 2017.8.
- d-06. 木村 中・松崎正敏・房家シン・鈴木裕之: 新生子めん羊への初乳追加給与が成長, 血液成分, 体組成および免疫機能に及ぼす影響. 第123回日本畜産学会大会 (信州大学, 松本市), 2017.9.

張 樹槐

- a-01. Arakawa, O., S. Kikuya, P. Pungpomin, S. Zhang and N. Tanaka: Accumulation of anthocyanin in apples in response to blue light at 450 nm: recommendations for producing quality fruit color under global warming. *Eur. J. Hortic. Sci.* 81(6): 297-302, December 2016
- a-02. Xujun Ye, Shyota Ishioka, Shuhuai Zhang: Estimation of the degree of red coloration in flesh of a red-fleshed apple cultivar 'Kurenai no Yume' with a UV-Vis-NIR interactance device, *Postharvest Biology and Technology*. Volume 124, Pages 128-136, February 2017
- a-03. 阿部汐里・張 樹槐・叶 旭君: ハイパースペクトル画像計測によるリンゴ成葉の窒素含有量推定モデルの構築. 農業食料工学会東北支部報No.63: 29-32, 2016
- d-01. 叶 旭君・阿部汐里・張 樹槐: ハイパースペクトル画像計測を用いたリンゴ樹の個葉および樹冠レベルの栄養状態評価と可視化, 第76回農業食料工学会年次大会講演要旨 (東京農業大学), 26, 2017
- d-02. 張 樹槐・岡本泰宏・叶 旭君: アスパラガス内部品質の非破壊的推定に関する研究, 第76回農業食料工学会年次大会講演要旨 (東京農業大学), 31, 2017
- d-03. 煙山智司・叶 旭君・吉川元起・張 樹槐: 新規ニオイセンサーMSSを利用した西洋ナシ‘ラ・フランス’の食

- べ頃判定, 第76回農業食料工学会年次大会講演要旨(東京農業大学), 230, 2017
- d-04. 阿部汐里・張 樹槐・叶 旭君・河内遥香・芳村裕之: ライススキャンとSPADによるリンゴ成葉の窒素含有量の推定, 第76回農業食料工学会年次大会講演要旨(東京農業大学), 232, 2017
- d-05. 木村 敬・廣瀬 孝・叶 旭君・片平光彦・小田昭浩・張 樹槐: プリネル硬度測定によるバイオコークス物性の簡易推定法について, 平成29年度農業食料工学会東北支部大会研究発表会要旨集(盛岡市), 15-16, 2017
- d-06. 叶 旭君・伊澤知輝・張 樹槐: トマトの果色解析によるリコピン含有量の推定および果実の等級選別 Android モバイルアプリケーションの開発, 平成29年度農業食料工学会東北支部大会研究発表会要旨集(盛岡市), 17-18, 2017
- d-07. 喬 炎・三浦大志・北山秋雄・王 艶薇・柄澤邦江・伊藤みほ子・森上幸恵・常 淑文・張 樹槐・赤羽秀樹: iPhone/スマートフォンのカメラを活用した褥瘡の早期診断装置の開発. 第19回日本褥瘡学会(盛岡市), ポスター発表, 2017
- d-08. 安 松浩・荒川 修・張 樹槐・田中紀充: サクラ‘ソメイヨシノ’花卉の着色に関する研究. 園芸学会(日本大学). 園学研, 16別1: 434, 2017
- f-01. 煙山智司・張 樹槐: セイヨウナシ“ラ・フランス”の可食適期判定へのMSSの応用, MEMSセンシング&ネットワークシステム展 2017, 10月4日-6日, 幕張メッセ, 2017
- f-02. 煙山智司・張 樹槐: セイヨウナシ“ラ・フランス”の可食適期判定へのMSSの応用, アグリビジネス創出フェア2017, 10月4日-6日, 東京ビッグサイト, 2017

松崎 正敏

- d-01. 松崎正敏・木下結貴・小倉 亮・齋藤知明・房家シン・鈴木裕之: リンゴ粕サイレージ給与で生産したラム肉の香り成分について. 日本緬羊研究会第61回大会(宮内庁御料牧場, 高根沢町), 2016.10.
- d-02. 鈴木裕之・金 海燕・房家シン・松崎正敏: 成熟中のハムスター卵母細胞におけるNeurofilament (NF) サブユニットの局在と機能. 日本畜産学会第122回大会(神戸大学, 神戸市), 2017.3.
- d-03. 松崎正敏・竹内紫穂・木村 中・房家シン・鈴木裕之: Difuctose Anhydride 3 (DFA3) の添加給与がめん羊の糖代謝に及ぼす影響. 日本畜産学会第122回大会(神戸大学, 神戸市), 2017.3.
- d-04. 鈴木裕之・高田裕貴・房家シン・松崎正敏: 成熟中のハムスター卵母細胞におけるグリア線維性酸性タンパク質の局在と機能. 東北畜産学会第67回大会(県民福祉プラザ県民ホール, 青森市), 2017.8.
- d-05. 梅木直哉・姜 東鎮・鈴木裕之・松崎正敏: リンゴジュース粕を混合した飼料イネ WCS の発酵品質が嗜好性に及ぼす影響. 東北畜産学会第67回大会(県民福祉プラザ県民ホール, 青森市), 2017.8.
- d-06. 木村 中・房家シン・鈴木裕之・松崎正敏: 新生子めん羊への初乳追加給与が成長, 血液成分, 体組成および免疫機能に及ぼす影響. 日本畜産学会第123回大会(信州大学, 南箕輪村), 2017.9.

川崎 通夫

- a-01. Thinh, N.C., E. Kumagai, H. Shimono, M. Kawasaki: Effects of elevated CO₂ concentration on bulbil germination and early seedling growth in Chinese yam under different air temperatures. *Plant Production Science*, 20: 313-322, 2017.
- a-02. Senda, M., N. Yamaguchi, M. Hiraoka, S. Kawada, R. Iiyoshi, K. Yamashita, T. Sonoki, H. Maeda, M. Kawasaki: Accumulation of proanthocyanidins and/or lignin deposition in buff-pigmented soybean seed coats may lead to frequent defective cracking. *Planta*, 245: 659-670, 2017.
- a-03. Thinh, N.C., H. Shimono, E. Kumagai, M. Kawasaki: Effects of elevated CO₂ concentration on growth and photosynthesis of Chinese yam under different temperature regimes. *Plant Production Science*, 20: 227-236, 2017.
- d-01. 川崎通夫: 医学・生物学材料におけるTEM/SEM試料作製法の基礎技術とtips, 植物試料作製の基礎. 日本顕微鏡学会第73回学術講演会(札幌コンベンションセンター), 2017.
- d-02. 千田峰生・山口直矢・平岡未帆・川田 聡・飯吉亮太・山下一騎・園木和典・前多隼人・川崎通夫: ダイズ褐色種子の易裂皮性に関する研究. 日本育種学会 第131回講演会(名古屋大学全学教育棟), 2017.
- d-03. 川崎通夫・福土苑華: 東北栽培用種子産地の異なる毛豆の生長と形質の特徴に関する研究. 日本作物学会東北支部第60回講演会(福島県農業総合センター), 2017.
- d-04. Kawasaki, M., R. Keimatsu, A. Endo: Effects of the applications of excessive irrigation water and acetaldehyde on Chinese yam tubers at Byobusan area of Aomori prefecture in Japan. 9th Asian Crop Science Association

Conference (Jeju, Korea), 2017.

- d-05. 川崎通夫・小倉亮汰：ヤムイモ類塊茎における形態形成と沈降性アミロプラスト・オーキシンの関係. 日本作物学会 第244回講演会 (岐阜大学共通教育等), 2017.
- d-06. 清水健司・川崎通夫・吉澤 篤：アモルファスブルー相における欠陥構造. 2017年日本液晶学会討論会 (弘前大学), 2017.
- e-01. 川崎通夫：砂丘地等における作物の地下部障害発生要因の研究および砂丘地の新作物導入に関する調査. 受託研究実施報告書 (委託者: 青森県西北県民局), 2017.
- f-01. 川崎通夫：超明解! 電顕入門講座 —原点回帰—, 様々な固定法 —植物組織の固定法—. 日本顕微鏡学会 第28回電顕サマースクール in Tokyo (東京慈恵会医科大学). 講演, 2017.
- f-02. 川崎通夫：砂丘地等における作物の地下部障害発生要因の研究および砂丘地の新作物導入に関する調査. 第4回屏風山地域産地力強化作戦会議 (つがる市, 屏風山野菜振興会), 研究報告, 2017.
- f-03. 川崎通夫：第3回域資源利活用教育研究センター シンポジウム (弘前大学農学生命科学部). 研究発表, 2017.
- f-04. 川崎通夫：屏風山地域におけるナガイモ塊茎の障害発生要因の研究および新作物導入に関する取組について. JA つがる西北 富産ながいも種子研究会総会・研修会 (つがる市), 講演, 2017.

本多 和茂

- a-01. T. Maeda, A. Watanabe, W. Daniel Zadrak, S. Osanai, K. Honda, S. Oku, H. Shimura, T. Suzuki, A. Yamasaki, Y. Okabe, K. Ueno, S. Onodera : Analysis of varietal differences in the fructo-oligosaccharide accumulation profile among onion (*Allium cepa* L.) cultivars grown by spring-sown. J. Japan Soc. Hort. Sci., 86(4): 501-510. 2017.
- d-01. 本多和茂・荒矢寿峰・佐藤風汰・瀧下真由子・熊谷 泉・前田智雄・勝川健三・石川幸男：カタクリ (*Erythronium japonicum*) のりん茎付属部を用いた増殖・栽培効率化の試み. 園芸研16別2: 546 (2017)
- d-02. 本多和茂・内沢秀光・立澤文見：カタクリ (*Erythronium japonicum*) の花のアントシアニン. 園芸研16別1: 436 (2017)
- d-03. 山田和輝・稲田雅史・佐藤純世・山田恵美・村上廣美・佐藤悠輔・赤石蓉子・佐藤 優・前田智雄・本多和茂・竹田珠実・橋本 勝：トウガラシ '弘前在来'・'ひも' の交雑後代におけるGC-MSを用いたカプシエイトの定量. 園芸研16別1: 351 (2017)
- d-04. ワムブラウ, ダニエル・柏谷太亮・松橋茉衣子・安原里美・奥 聡史・志村華子・本多和茂・前田智雄・山口貴之：アスパラガスにおける光照射とフラボノイド生合成との関係に関する基礎的な遺伝子発現解析. 園芸研16別1: 173 (2017)
- f-01. 朝日新聞青森版「弘前公園 いつ開花」. 2017年4月1日, 25
- f-02. 東奥日報「津軽のゴッホのヒマワリ異変?」. 2017年8月24日, 15
- f-03. 2015年ネパール地震後の社会再編に関する災害民族誌的研究・第2回研究会. ネパール大震災後のヒマラヤ〜その現状と課題：復興にむけた農業生産振興および植物遺伝資源の保護・保全と持続的利用〜. 2017年7月1-2日：国立民族学博物館
- f-04. 2016 Japan- Nepal Mini-workshop on the 2015 Gorkha Earthquake-induced : Conservation and sustainable utilization of Himalayan plant resources on Nepal to reconstruct after earthquake disaster in 2015—My aims and perspectives—. New Baneshwor, Kathmandu. 2016年11月11日
- f-05. 千葉大学環境健康フィールド科学センター特別講演会：ネパール大震災後のヒマラヤ〜その現状と課題：復興にむけた農業生産振興および植物遺伝資源の保護・保全と持続的利用〜. 2017年4月18日

前田 智雄

- a-01. 浅井雅美・西畑秀次・前田智雄：タマネギの積雪前と融雪後の糖およびフルクトオリゴ糖含量. 植物環境工学, 28(4):182-188. 2016.
- d-01. Wambrauw D., T. Kashiwatani, M. Matsushashi, S. Yasuhara, S. Oku, H. Shimura, K. Honda, T. Maeda, T. Yamaguchi: Basic Gene Expression Analysis on the Relationship between Light Exposer and Flavonoid Biosynthesis in Asparagus. 園芸学会 (日本大学藤沢). 園学研16別1: 173. 2017.
- d-02. 山田和輝・稲田雅史・佐藤純世・山田恵美・村上廣美・佐藤悠輔・赤石蓉子・佐藤 優・前田智雄・本多和茂・竹田珠美・橋本 勝：トウガラシ '弘前在来' × 'ひも' の交雑後代におけるGC-MSを用いたカプシエイトの定量. 園芸学会 (日本大学藤沢). 園学研15別1: 351. 2017.
- d-03. 甲村浩之・村上満里奈・澤井亮人・前田智雄：ホワイトアスパラガスの長期採り栽培におけるプロトディオシン

含量の時期別・方法別差異. 園芸学会(日本大学藤沢). 園学研15別1: 361. 2017.

- d-04. 奥 哉史・志村華子・前田智雄・実山 豊・鈴木 卓: MALDI-TOF MSを利用したタマネギ鱗茎におけるフルクタン分布の可視化. 園芸学会(酪農学園大学). 園学研15別2: 238. 2017.
- d-05. 本多和茂・新矢寿峰・佐藤風汰・瀧下真由子・熊谷 泉・前田智雄・勝川健三・石川幸男: カタクリ (*Erythronium japonicum*) のりん茎付属部を用いた増殖・栽培効率化の試み. 園芸学会(酪農学園大学). 園学研15別2: 546. 2017.

叶 旭君

- a-01. Xujun Ye, Shyota Ishioka, Shuhuai Zhang: Estimation of the degree of red coloration in flesh of a red-fleshed apple cultivar 'Kurenai no Yume' with a UV-Vis-NIR interactance device. *Postharvest Biology and Technology*, Vol. 124, pp. 128-136, February 2017
- a-02. Zhou Li-ping, Zhao Yan-ru, Yu Ke-qiang, He Yong, Fang Hui, Ye Xu-jun: Hyperspectral Technique for Estimating the Shelf-Lives of Fresh Spinach Leaves Covered with Film. *Spectroscopy and Spectral Analysis*, Vol. 37, No. 2, pp. 423-428, 2017
- a-03. 阿部汐里・張 樹槐・叶 旭君: ハイパースペクトル画像計測によるリンゴ成葉の窒素含有量推定モデルの構築. 農業食料工学会東北支部報, No. 63, 29-32, 2016
- d-01. 叶 旭君・阿部汐里・張 樹槐: ハイパースペクトル画像計測を用いたリンゴ樹の個葉および樹冠レベルの栄養状態評価と可視化. 第76回農業食料工学会年次大会講演要旨(東京農業大学), 26, 2017
- d-02. 張 樹槐・岡本泰宏・叶 旭君: アスパラガス内部品質の非破壊的推定に関する研究. 第76回農業食料工学会年次大会講演要旨(東京農業大学), 31, 2017
- d-03. 煙山智司・叶 旭君・吉川元起・張 樹槐: 新規ニオイセンサーMSSを利用した西洋ナシ'ラ・フランス'の食べ頃判定. 第76回農業食料工学会年次大会講演要旨(東京農業大学), 230, 2017
- d-04. 阿部汐里・張 樹槐, 叶 旭君・河内遥香・芳村裕之: ライススキャンとSPADによるリンゴ成葉の窒素含有量の推定. 第76回農業食料工学会年次大会講演要旨(東京農業大学), 232, 2017
- d-05. 木村 敬・廣瀬 孝・叶 旭君・片平光彦・小田昭浩・張 樹槐: プリネル硬度測定によるバイオコークス物性の簡易推定法について. 平成29年度農業食料工学会東北支部大会研究発表会要旨集(盛岡市), 15-16, 2017
- d-06. 叶 旭君・伊澤知輝・張 樹槐: トマトの果色解析によるリコピン含有量の推定および果実の等級選別 Androidモバイルアプリケーションの開発. 平成29年度農業食料工学会東北支部大会研究発表会要旨集(盛岡市), 17-18, 2017

田中 紀充

- a-01. Arakawa, O. S. Kikuya, P. Pungpomin, S. Zhang and N. Tanaka. Accumulation of anthocyanin in apples in response to blue light at 450 nm: recommendations for producing quality fruit color under global warming. *European Journal of Horticultural Science*. 81(6) : 297-302, 2016.
- a-02. Norimitsu Tanaka, Yuki Tanaka-Moriya, Naozumi Mimida, Chikako Honda, Hiroshi Iwanami, Sadao Komori, Masato Wada. The analysis of transgenic apples with down-regulated expression of *MdPISTILLATA*. *Plant Biotechnology*. 33 : 395-401, 2016.
- b-01. 田中紀充: リンゴ栽培の技術的課題. カーペンター・ビクター, 神田健策, 黄孝春編. 「グローバル下のリンゴ産業—世界と青森—」. 弘前大学出版会: 249-261, 2017.
- c-01. 田中紀充: 果樹研究最前線(254) 柱頭への受粉本数がリンゴの果形におよぼす影響. *果実日本* 72: 8-11, 2017.
- d-01. 田中紀充・小島夏実・岸 優花・松本省吾・小森貞男・荒川 修: リンゴの中心果と側果の違いが果形に及ぼす影響. 園芸学会(日本大学). 園学研, 16別1: 69, 2017.
- d-02. 安 松浩・荒川 修・張 樹槐・田中紀充: サクラ'ソメイヨシノ'花卉の着色に関する研究. 園芸学会(日本大学). 園学研, 16別1: 69, 2017.
- d-03. Arakawa, O. P. Pungpomin, S. An, and N. Tanaka. Effect of blue light on red color development and anthocyanin accumulation of sweet cherries. VIII International Cherry Symposium in Yamagata (山形市). 2017
- f-01. 田中紀充: The genetic analysis of Parthenocarpic apple. 中国農業科学院鄭州果樹研究所. 招待講演. 2016.
- f-02. 田中紀充: 鶴田町労働力マッチングによる農業活性化事業に関する調査研究. 調査報告書. 2017.
- f-03. 田中紀充: 柱頭への受粉本数がリンゴの果形におよぼす影響. 平成28年度寒冷地果樹研究会. 招待講演.

2017.

- f-04. 田中紀充：リンゴ「ふじ」における変形果実の発生要因の解明と発生防止技術について。富山県果樹試験場。招待講演。2017.

【食農経済コース】

泉谷 眞実

- a-1. 小野 洋, 野中章久, 金井源太, 山下善道, 泉谷眞実：島嶼国における環境問題—キリバス共和国における水質調査—。食品経済研究, 45: 21-31, 2017.
- a-2. 泉谷眞実：農林業の静脈産業と市場形成の課題。農業と経済, 83 (8): 43-51, 2017.
- d-1. 泉谷眞実：東北地域における労働力不足の現局面。平成29年度 東北農業試験研究推進会議 作物生産推進部会 農業経営研究会(夏期)(東北農業研究センター), 2017.
- d-2. 泉谷眞実：稲わら工品産業の存立構造。第53回東北農業経済学会山形大会個別報告(山形大学), 2017.
- d-3. 正木 卓, 泉谷眞実, 房 家琛：養豚業におけるエコフィードの利用と事業経済性に関する研究—青森県の養豚経営K社を事例として—。第124回北海道農業経済学会例会個別報告(北海道大学), 2017.
- f-1. シンポジウム座長「東北水田農業の近未来」。第53回東北農業経済学会山形大会シンポジウム(山形大学), 2017.

渋谷 長生

- e-01. 渋谷長生：日本産なまこ輸出拡大に伴う諸問題と今後の方向。弘前大学・青森市「ナマコ機能性研究調査報告書」, 2017年5月
- f-01. 渋谷長生：青森県農業の強さと課題。青森県地方自治センター「地方自治あおもり」10-22, 2016.12月号

石塚 哉史

- a-01. 石塚哉史：農産物・食品輸出の現段階的特質と展望。農業市場研究(No.25-3): 4-13, 2016.
- b-01. 成田拓未・石塚哉史：中国におけるリンゴの生産・消費の現段階。カーペンター・ビクター・黄孝春・神田健策編『グローバル下のりんご産業—世界と青森—』弘前大学出版会：45-61, 2017.
- b-02. 石塚哉史：台湾のリンゴ市場における日本産の販路確保の展開と課題—青森県弘前市の事例を中心に—。ビクター・カーペンター・黄孝春・神田健策編『グローバル下のりんご産業—世界と青森—』弘前大学出版会：63-77, 2017.
- b-03. 石塚哉史：東日本大震災・原発事故以降の青森県産リンゴ果汁における輸出マーケティングの展開と課題。ビクター・カーペンター・黄孝春・神田健策編『グローバル下のりんご産業—世界と青森—』弘前大学出版会：263-275, 2017.
- c-01. 真下俊樹・後藤 忍・並河信太郎・石塚哉史・前川慎太郎・小林芳朗・三浦俊彦・楠本昭夫・山内ゆかり・合崎真理：子ども・教職員の安全・健康と環境・食教育。日本教職員組合編：日本の教育—第66集—(アドバンテージサーバー)：241-256, 2017.
- d-01. 高梨子文恵・石塚哉史・澤村圭祐：日本産牛肉のベトナム国内流通主体の特徴と輸出拡大に向けた課題。日本農業市場学会2017年度大会(岩手大学), 2017.
- d-02. 成田拓未・石塚哉史：わが国におけるぶどう輸出の現状と課題。東北農業経済学会2017年度大会(山形大学), 2017.
- e-01. 石塚哉史：食の問題。日本教職員組合編：2016年度母と女性教職員の会全国集会報告集(アドバンテージサーバー)：61-64, 2016.
- e-02. 石塚哉史：青森県産りんご輸出におけるバリューチェーンの創出と課題に関する実証的研究。平成28年度弘前大学若手・新任研究者支援事業研究成果集(弘前大学)：76, 2017.
- f-01. 石塚哉史：TPPと地域農業。つがる市講演会「地域課題・生活課題に取り組む人材育成を図る」(つがる市生涯学習交流センター松の館), 2016.
- f-02. 石塚哉史：産地農協における多品目野菜輸出の取り組みと課題—湧別町農企業協同組合の事例—。野菜情報(2017年4月号)：62-69, 2017.
- f-03. 石塚哉史・正木 卓・成田拓未：平川市まちづくり推進事業について。国立大学法人弘前大学と平川市との平成

28年度連携調査研究事業成果報告会(東京會館), 2017.

- f-04. 成田拓未・石塚哉史:「自然の恵みに感謝する豊かな食と農づくりーりんごを活かしたまちづくりー」第20回日本環境共生学会地域シンポジウム(弘前大学), 2017.
- f-05. 鶴川洋樹・石塚哉史:「TPP大筋合意と農業者・消費者の対応」座長解題. 農村経済研究(No.35-1): 3-8, 2017.
- f-06. 石塚哉史:「TPP大筋合意と農業者・消費者の対応」座長総括. 農村経済研究(No.35-1): 49-51, 2017.
- f-07. 成田拓未・石塚哉史:座長解題:自然の恵みに感謝する豊かな食と農づくりーりんごを活かしたまちづくりー. 環境共生(第31号): 22-25, 2017.

高梨子 文恵

- a-01. 高梨子文恵・坂爪浩史:ベトナムにおける中国市場指向型青果物産地の特徴, 食農資源経済論集, 68-2: 1-10, 2017
- a-02. 高梨子文恵:日本の卸売市場への熱い視線ーベトナムの例:農業と経済, 83-11, 2017
- d-01. 高梨子文恵・石塚哉史・澤村圭祐:ベトナムにおける日本産牛肉流通チャンネルの特徴と輸出拡大に向けた課題, 日本農業市場学会(盛岡市), 2017
- d-02. Fumie Takanashi, Thuy Nguyen Thi: Challenges of Local Value Chain in Vietnamese Food Service -The Case of Catering Industry Located in Industrial Zone, 8th ICERD (Nonthaburi, Thailand), 2017
- e-01. 石塚哉史・松崎正敏・高梨子文恵:日本産牛肉のベトナム輸出マーケティング戦略の現段階と課題に関する実証的研究, 平成27年度食肉流通関係委託調査研究報告書, 2017
- f-01. 高梨子文恵:全国で活躍する女性農業者, かみきた畑美人講座閉校式, 2017

成田 拓未

- b-01. カーペンター ビクター・神田健策・黄孝春・成田拓未ほか:グローバル下のリンゴ産業. 弘前大学出版会, 1-286, 2017
- b-02. 種市 豊・相原延英・野見山敏雄・張 娟・成田拓未・安井拓哉:加工・業務用青果物における生産と流通の展開と展望. 筑波書房, 1-140, 2017
- d-01. 成田拓未:日本の農協における物流システムの高度化. 東亜農業合作社経済発展国際検討会(中国・瀋陽農業大学), 2016
- d-02. 成田拓未・石塚哉史:座長解題・自然の恵みに感謝する豊かな農と食づくり:りんごを活かしたまちづくり. 日本環境共生学会地域シンポジウム(弘前大学), 2017
- d-03. 成田拓未:我が国におけるぶどう輸出の現状と課題:山形県における農協のシャインマスカット輸出を事例に. 東北農業経済学会個別報告(山形大学), 2017
- f-01. 成田拓未:果実のマーケティング:青森・りんご産地の事例を中心に. 農業と経済. 82(10): 48-53, 2016
- f-02. 成田拓未:農林水産物・食品輸出とTPP. 農中総研情報. 57: 12-13, 2016
- f-03. 成田拓未:TPPによるりんご農家のメリット, デメリット. りんご技術. 36(1): 38-41, 2016
- f-04. 成田拓未:第5報告へのコメント. 農村経済研究. 35(1): 46-48, 2017
- f-05. 成田拓未:カットリンゴの新展開と流通システムの革新. 果実日本. 72(7): 62-66, 2017
- f-06. 成田拓未・石塚哉史:座長解題:自然の恵みに感謝する豊かな職と農づくり:りんごを活かしたまちづくり. 環境共生. 31: 22-25, 2017

佐藤 加寿子

- a-01. 佐藤加寿子:秋田県農業の現状と園芸メガ団地育成事業. 農業・農協問題研究, 62: 2-12, 2017
- a-02. 佐藤加寿子:神田健策編「新自由主義下の地域・農業・農協」筑波書房2014年. 歴史と経済, 234: 55-56, 2017
- b-01. 鶴川洋樹・佐藤加寿子・佐藤 了:はじめに『転換期の水田農業ー稲単作地帯における挑戦ー』: i-v, 農林統計協会, 2017
- b-02. 佐藤加寿子:第1章 秋田県水田農業の与件変化ー米政策改革による影響ー『転換期の水田農業ー稲単作地帯における挑戦ー』: 1-18 農林統計協会, 2017
- b-03. 佐藤加寿子:おわりに『転換期の水田農業ー稲単作地帯における挑戦ー』: 265-266, 農林統計協会, 2017
- f-01. 佐藤加寿子:秋田県農業が直面している事態と園芸メガ団地育成事業. 農業・農協問題研究所, 研究所東北支部共催 現地研究会(秋田県由利本荘市文化交流館カダーレ), 2016

佐藤 孝宏

- a-01. Takahiro Sato, Mario Lopez, Taizo Wada, Shiro Sato, Makoto Nishi, Kazuo Watanabe, 2016. Humanosphere potentiality index: Appraising existing indicators from a long-term perspective. *The International Journal of Social Quality* 6(1):32-66.
- a-02. Takahiro Sato, 2016. Overview of food-water-energy nexus in India: with special reference to Punjab and Tamil Nadu. *Paper presented in the 8th INDAS-South Asia International Conference "Toward Sustainable Development of India and South Asia"*, Kyoto, Japan.
- b-01. Takahiro Sato, *in press*, "Livelihood Transformability in Indian Villages with Poor Water Resources: The Case of Tamil Nadu". In Mio et al. (eds.) "Structural Transformation in Globalizing South Asia: Comprehensive Area Studies for Sustainable, Inclusive, and Peaceful Development", *Senri Ethnological Studies*.
(査読つき、2017年7月24日掲載許可、出版予定2017年12月)
- d-01. 佐藤孝宏：南アジア半乾燥地におけるプロソピス被覆面積拡大が世帯収入に及ぼす影響。人間文化研究機構「現代中東地域研究」秋田大学拠点、人間文化研究機構「南アジア地域研究」京都大学拠点共催研究会「中東と南アジアの外来移入種メスキート問題—砂漠化対処から水・エネルギー・食料の資源ネクサスへ—」(秋田大学), 2016年11月19日.
- f-01. Takahiro Sato: Comment on the session 1: Impact of Climate Change, Water and Energy on Long-term Socio-economic Changes. *RIHN 11th International Symposium Asia's Transformation to Sustainability: Past, Present and Future of the Anthropocene* (総合地球環境学研究所), 2017年3月10日.
- f-02. Takahiro Sato, Mario Lopez, Taizo Wada, Shiro Sato, Makoto Nishi, Kazuo Watanabe, 2017. Humanosphere Potentiality Index: Envisioning a strong sustainability paradigm approach for the globe. [Online] available at: <http://www.sustainablehumanosphere.org/>
(a-01の論文内容を国際的に発信するためのホームページの作成と公開)
- f-03. 佐藤孝宏：環インド洋諸熱帯地域の農業生産性。「環インド洋熱帯地域における複数発展経路と自然環境—比較と連関」研究 第一回研究会 (総合地球環境学研究所), 2017年6月24日.

吉仲 怜

- a-01. 野中章久・吉仲 怜・金井源太：コメ乾燥にかかる電気料金の実態と自家発電による削減の可能性—北東北地域の稲作法人を事例として—。農業経済研究. 第88巻第4号: 376-381, 2017.
- e-01. 吉仲 怜：平成28年度果樹経営マーケットイン拡大サポート事業におけるカントリーご専用モデル実証ほ経営調査報告書 (青森県), 2017.
- e-02. 吉仲 怜：青森県農業経営研究協会賞受賞者の営農展開過程に関する調査研究報告書 (青森県農業経営研究協会), 2017.

正木 卓

- a-01. Masaki,S., Shin,D: The Follow-up System in Order to Establish "Sixth-order Industrialization" - A Case of a Promoting Council of the Foods & Tourism Cluster Type in Hokkaido. *J. Korean Soc. Int. Agric.*29:3: 251-261, 2017.
- a-02. 正木 卓・高 恵琛・坂下明彦：北海道における協同組合のレーゾンデートル。協同組合研究. 37: 13-23, 2017.
- a-03. 渡辺康平・小林国之・正木 卓・申 鍊鐵：地場企業によるインショップ事業の収益性と利用生産者の販路分析—岡山県有限会社漂流岡山を事例として—。農業経済研究. 88(4): 400-405, 2017.
- a-04. 正木 卓：改正農協法下における農協監査制度の課題と中央会の対応—北海道を事例として—。農業経済研究. 88(3): 293-298, 2016.
- b-01. 正木 卓：農協監査制度改革と懸念される課題。小林国之の編著『北海道から農協改革を問う』筑波書房：131-154, 2017.
- d-01. 正木 卓・泉谷眞実・房 家琛：養豚業におけるエコフィードの利用と事業経済性に関する研究—青森県の養豚経営 K社を事例として—。第134回北海道農業経済学会例会個別報告 (北海道大学), 2017.
- d-02. 正木 卓：シンポジウム「東北水田農業の近未来」コメント。第53回東北農業経済学会 (山形大学), 2017.
- d-03. 柏 絵織・正木 卓：農福連携による障害者の就労支援の取組みと農村地域への影響—北海道T町を事例として—。

日本協同組合学会第36回大会個別論題報告(北海道大学), 2016.

- f-01. 正木 卓: 中山間地域における農業振興と地域農業支援システム. 平成29年度全国中山間地域振興対策協議会東北支部協議会講演会(南部町), 2017.
- f-02. 正木 卓: 農協事業及び地域振興の課題整理. JA新函館南渡島地区担い手養成講座ワークショップ講師(知内町), 2017.
- f-03. 正木 卓: 集落営農の経営発展に向けて必要な地域支援. あおもり集落営農ステップアップセミナー基調講演(青森市), 2017.
- f-04. 正木 卓・房 家琛: 食品循環資源の飼料化とその市場形成—青森県の養豚法人K社を事例として—. 農業と経済(2017年9月号): 61-69, 2017.
- f-05. 正木 卓: 農協が支える地域インフラの実態—北海道厚生連を事例に—. 協同組合研究誌(2017年臨時増刊): 110-118, 2017.
- f-06. 正木 卓: 北海道における生活拠点としての店の役割—生協の取組と農協の協同組合間協同から—. 協同組合研究誌(2017年春号): 24-31, 2017.
- f-07. 正木 卓: 地域農業・農村戦略策定推進事業報告書(稲作野菜複合地域, 園芸地域). 北海道地域農業研究所: 24-29, 57-60, 2017.

【地域環境工学科】

泉 完

- a-01. 矢田谷健一・泉 完・東 信行・丸居 篤：既設全面越流型階段式魚道切欠き部における小型ウキゴリ類等の遡上実態調査，土木学会論文集B1（水工学）Vol.73, No.4, I_397-I_402,2017.
- a-02. 矢田谷健一・泉 完・東 信行・丸居 篤：河川遡上期の小型ウキゴリ類の高流速条件下における遊泳能力，農業農村工学会論文集，No.305（85-2），II_53-II_59,2017.
- d-01. 杉本亜里沙・泉 完・東 信行・丸居 篤：小型通し回遊魚の遊泳能力について－ワカサギの臨界遊泳速度に関する実験（予報），平成29年度農業農村工学会大会講演集. 676-677，2017.

佐々木 長市

- a-01. Matsuyama, N., H. Fujisawa, C. Kato, C. Sasaki, M. Saigusa: Contrasting Soil Properties of Allophanic and Non-allophanic Horizons of Volcanic Ash Soil in Tohoku District, Japan. J. of Agriculture and Environmental Science, 2017.(in press)
- a-02. Li, S., C. Sasaki, C. Kato, N. Matsuyama, T. Annaka, A. Endo, K. Sasaki: Reducing cadmium and copper uptake of soybeans by controlling groundwater level and its impacts on growth and yield. International Journal of Environmental and Rural Development, 8-1:77-84, 2017.
- a-03. Sasaki, K., C. Sasaki, C. Kato, T. Annaka, N. Matsuyama: Effects of the Percolation Patterns and the Thickness of Soil Dressing on Reducing Cadmium Uptake and Growth and Yields of Rice Plants (*Oryza Sativa* L.), Journal of Environmental Science and Engineering, A5:259-266, 2016.
- a-04. Sasaki, K., C. Sasaki, N. Matsuyama, C. Kato, F. Jinhun, A. Endo: Studies on reducing cadmium uptake of rice plants by both soil dressing and mixing tillage. International Journal of Environmental and Rural Development, 7-1, 6-14, 2016
- b-01. 佐々木長市・松山信彦：白神学入門<2017>，白神山地の土壤. 弘前大学出版会：p.58-62，2017.
- d-01. 松山信彦・端村由貴人・藤澤春樹・加藤千尋・佐々木長市：硝酸態窒素が草型の異なる水稻の生育・収量に及ぼす影響－閉鎖浸透水田模型を用いた検討－. 2017年日本土壤肥料学会講演会（仙台），2017.
- d-02. 范 津瑋・佐々木長市・佐々木喜市・松山信彦・加藤千尋・遠藤 明：成層水田模型の浸透型が水稻の銅吸収に及ぼす影響，H29 農業農村工学会大会講演会講演要旨集（藤沢市），694-695，2017.
- d-03. 遠藤 明・伊藤大雄・加藤千尋・佐々木長市・加藤 幸：無施肥条件の灰色低地土りんご園における土壤水分・間隙水ECおよび地温の特徴，2017年度農業農村工学会大会講演会（藤沢市），3-32（P），2017.
- d-04. 加藤千尋・遠藤 明・佐々木長市：ホタテ貝殻資材施用がりんご園土壌の理化学性に及ぼす影響，2017年度農業農村工学会大会講演会（藤沢市），3-30（P），2017.
- d-05. Kato, C., S. Nakano, A. Endo, C. Sasaki, T. Shiraiwa: Modeling the effects of excess water on soybean growth in converted paddy field in Japan 1. Predicting groundwater level and soil moisture condition - The case of Biwa lake reclamation area, 9th Asian Crop Science Association Conference (Jeju, Korea), 2017.
- d-06. Li, S., C. Sasaki, C. Kato, N. Matsuyama, T. Annaka, A. Endo, K. Sasaki: Reducing cadmium and copper uptake of soybeans by controlling groundwater level and its impacts on growth and yield. 8th International Conference of Environmental and Rural Development, Nonthaburi. 2017.
- d-07. 加藤千尋・白岩立彦・西村 拓・遠藤 明・佐々木長市：琵琶湖干拓地の水田転換畑における地下水水位・土壤水分予測，2016年度土壤物理学大会（京都市），P11，2016.

檜垣 大助

- a-01. Higaki, D., Hamasaki, E. and K. Hayahi : Development of a hazard evaluation technique for earthquake-induced landslides based on an Analytic Hierachy Process (AHP), K.Sassa et al, ed. Advancing Culture of Living with Landslides Vol.1 ISDR-ICL Sendai partnership 2015-2025, Springer, 389-396, ISBN978-3-319-53500-5, 2017.
- a-02. S. Ogita, W. Sagara, D. Higaki and Research Committee on Elucidating Mechanisms of Large-scale Landslides, Shapes and mechanisms of large-scale landslides in Japan: Forecasting analysis from an inventory, K.Sassa et al, ed. Advancing Culture of Living with Landslides Vol.1 ISDR-ICL Sendai partnership 2015-2025, Springer,317-326, ISBN978-3-319-53500-5, 2017.

- b-01. 井良沢道也・檜垣大助・小岩直人・高橋未央・岡本隆ほか13名：2016年8月30日台風10号による岩手県岩泉町及び宮古市における土砂災害, 砂防学会誌, 69-6, 80-91, 2017.
- b-02. 檜垣大助：書評 微地形学一人と自然をつなぐ鍵, 藤本潔・宮城豊彦・西城潔・竹内裕希子編著, 古今書院, 日本地すべり学会誌, 54(1): 26-27.
- c-01. 檜垣大助・綱木亮介・寺田秀樹・坂口哲夫・上野雄一：地すべり学会・斜面防災対策技術協会熊本地震災害合同調査団報告, 斜面防災技術43-3, 52-66, 2016.10月
- d-01. 檜垣大助・林 郁真：阿蘇山における1990, 2001, 2012年崩壊発生場の地形条件と豪雨による崩壊発生危険発生斜面, 第56回日本地すべり学会研究発表会, 長野, 2017.

藤崎 浩幸

- e-01. 藤崎浩幸：第1章 若年層の田園回帰の意義の可能性 および 第3章2 市町村の移住センターの機能と効果 ～ひろさき移住サポートセンター東京事務所～, 若年層の田園回帰事例に学ぶ農山村再興方策, (公財)東北活性化研究センター, 21-27 および 107-114, 2017.
- e-02. 藤崎浩幸：農村計画学から 三八地域における地域経営事業の成果と課題 農村計画学からの所見, 青森県「農山漁村」地域経営事業評価・提言報告書, 弘前大学大学院地域社会研究科, 32-36, 2017.

遠藤 明

- a-01. Li, S., C. Sasaki, C. Kato, N. Matsuyama, T. Annaka, A. Endo, K. Sasaki : Reducing cadmium and copper uptake of soybeans by controlling groundwater level and its impacts on growth and yield, International Journal of Environmental and Rural Development, 8-1:77-84, 2017.
- a-02. 加藤 幸・遠藤 明・千葉克己・溝口 勝：リンゴ園地における施肥後の土壌環境の「見える化」とその評価, 農業農村工学会論文集, 303: II_95- II_102, 2016.
- d-01. 遠藤 明・伊藤大雄・加藤千尋・佐々木長市・加藤 幸：無施肥条件の灰色低地土リンゴ園における土壌水分・間隙水ECおよび地温の特徴, 2017年度農業農村工学会大会講演会(藤沢市), 3-32 (P), 2017.
- d-02. 加藤千尋・遠藤 明・佐々木長市：ホタテ貝殻資材施用がりんご園土壌の理化学性に及ぼす影響, 2017年度農業農村工学会大会講演会(藤沢市), 3-30 (P), 2017.
- d-03. Kato, C., S. Nakano, A. Endo, C. Sasaki, T. Shiraiwa : Modeling the effects of excess water on soybean growth in converted paddy field in Japan 1. Predicting groundwater level and soil moisture condition - The case of Biwa lake reclamation area, 9th Asian Crop Science Association Conference (Jeju, Korea), 2017.
- d-04. Kawasaki, M., R. Keimatsu, A. Endo : Effects of the applications of excessive irrigation water and acetaldehyde on Chinese yam tubers at Byobusan area of Aomori prefecture in Japan. 9th Asian Crop Science Association Conference (Jeju, Korea), 2017.
- d-05. 加藤千尋・白岩立彦・西村 拓・遠藤 明・佐々木長市：琵琶湖干拓地の水田転換畑における地下水位・土壌水分予測, 2016年度土壌物理学学会大会(京都市), P11, 2016.
- e-01. 遠藤 明：砂丘地等における土壌理化学性が根菜類の生育に及ぼす影響, 平成28年度受託研究実施報告書(青森県西北地域県民局), 2017.

加藤 幸

- a-01. 加藤 幸・遠藤 明・千葉克己・溝口 勝：リンゴ園地における施肥後の土壌環境の「見える化」とその評価, 農業農村工学会論文集, 303, II_95-102, 2016.
- d-01. 加藤 幸・千葉克己：水田転作ブドウ園における地下水位と土壌水分量の関連性, 2016年度土壌物理学学会大会講演要旨, 44-45, 2016.10.
- d-02. 千葉克己・宮内敏郎・加藤 幸：CTD センサとES-2 センサを用いた津波被災農地の地下水観測(2), 2016年度土壌物理学学会大会講演要旨, 112-113, 2016.
- d-03. 加藤 幸・藤倉早希・松岡名月・千葉克己：フィールドモニタリングによるセリ栽培のメソッド化, 平成29年度農業農村工学会学会大会講演要旨集, 784-785, 2017.
- d-04. 千葉克己・加藤 幸・郷古雅春・富樫千之・宮内敏郎：復旧後の津波被災農地における淡水レンズの動態, 平成29年度農業農村工学会学会大会講演要旨集, 698-699, 2017.
- d-05. 遠藤 明・伊藤大雄・加藤千尋・佐々木長市・加藤 幸：無施肥条件の灰色低地土リンゴ園における土壌水分・間隙水ECおよび地温の特徴, 平成29年度農業農村工学会学会大会講演要旨集, 266-267, 2017.

丸居 篤

- a-01. 矢田谷健一・泉 完・東 信行・丸居 篤：既設全面越流型階段式魚道切欠き部における小型ウキゴリ類等の遡上実態調査. 土木学会論文集B1 (水工学) Vol.73, No.4, I_397-402, 2017.
- a-02. 矢田谷健一・泉 完・東 信行・丸居 篤：河川遡上期の小型ウキゴリ類の高流速条件下における遊泳能力. 農業農村工学会論文集, No.305 (85-2), II_53-59, 2017.
- a-03. Ogiwara M., A. Marui, M. Izumi: Water Management For Increasing Feed Rice Yield And For Environmental Conservation: An experimental Study. Proceedings of The Second World Irrigation Forum, pp.673-679, 2016.
- d-01. 杉本亜里沙・泉 完・東 信行・丸居 篤：小型通し回遊魚の遊泳能力について—ワカサギの臨界遊泳速度に関する実験 (予報). 平成29年度農業農村工学会大会講演集, 676-677, 2017.
- d-02. Furukawa Z., Yasufuku N., Omine K., Marui A, Tuvshintogtokh I., Mandakh B.: Moisture Retention Effect of Greening Soil Material (GSM) for Survival of Licorice (*Glycyrrhiza uralensis* Fisch.) in Mongolian Arid Land, Proc. of The 8th Asian Joint Symposium on Geotechnical and Geoenvironmental Engineering (JS-TAINAN), 43-48, 2016.

森 洋

- a-01. 森 洋・新井曜子・原島 実：遠心模型実験による表層地盤条件を変化させた浸透破壊現象の実験的考察. 農業農村工学会論文集, No.303 (84-3), pp. I 403- I 408, 2016.
- a-02. 森 洋： Δu 法を模擬した盛土堤防の安全率評価に係る実験的考察. 農業農村工学会論文集, No.304 (85-1), pp. IV_1-IV_2, 2017.
- c-01. 森 洋：ため池堤体の耐震性評価手法に関わる考察について. 土地改良の測量と設計 (土地改良測量設計技術協会・機関誌), Vol.84, pp.4-13, 2016.
- d-01. 森 洋・門司章弘：融雪沈降力に関わる形状記憶樹脂材料の物理的特性について. 平成29年度砂防学会研究発表会 (奈良県), 188-189, 2017.
- d-02. 森 洋・島根涼太：ため池堤体での不攪乱試料採取方法と地盤強度特性について. 平成29年度農業農村工学会大会講演会 (日本大学), 592-593, 2017.
- d-03. 森 洋・木村一登：貫入試験用モールド径を変化させた場合の支持力とすべり面破壊形状について, 平成29年度農業農村工学会大会講演会 (日本大学), 598-599, 2017.

加藤 千尋

- a-01. 宮崎 毅・加藤千尋：地球規模の温暖化が水資源、耕作適地にもたらす影響 第2回 地温のわずかな上昇が耕地の土壤環境に及ぼす影響, *アグリバイオ*, 1 (6): 91-95, 2017.
- a-02. Matsuyama, N., H. Fujisawa, C. Kato, C. Sasaki, M. Saigusa: Contrasting Soil Properties of Allophanic and Non-allophanic Horizons of Volcanic Ash Soil in Tohoku District, Japan. *J. of Agriculture and Environmental Science*, 2017. (in press)
- a-03. Li, S., C. Sasaki, C. Kato, N. Matsuyama, T. Annaka, A. Endo, K. Sasaki: Reducing cadmium and copper uptake of soybeans by controlling groundwater level and its impacts on growth and yield. *International Journal of Environmental and Rural Development*, 8-1:77-84, 2017.
- d-01. 松山信彦・端村由貴人・藤澤春樹・加藤千尋・佐々木長市：硝酸態窒素が草型の異なる水稻の生育・収量に及ぼす影響—閉鎖浸透水田模型を用いた検討—. 2017年日本土壤肥料学会講演会 (仙台), 2017.
- d-02. 遠藤 明・伊藤大雄・加藤千尋・佐々木長市・加藤 幸：無施肥条件の灰色低地土リソゴ園における土壤水分・間隙水ECおよび地温の特徴, 2017年度農業農村工学会大会講演会 (藤沢市), 3-32 (P), 2017.
- d-03. 加藤千尋・遠藤 明・佐々木長市：ホタテ貝殻資材施用がりんご園土壌の理化学性に及ぼす影響, 2017年度農業農村工学会大会講演会 (藤沢市), 3-30 (P), 2017.
- d-04. Kato, C., S. Nakano, A. Endo, C. Sasaki, T. Shiraiwa : Modeling the effects of excess water on soybean growth in converted paddy field in Japan 1. Predicting groundwater level and soil moisture condition - The case of Biwa lake reclamation area, 9th Asian Crop Science Association Conference (Jeju, Korea), 2017.
- d-05. Nakano, S., C. Kato, L. C. Purcell, T. Shiraiwa : Modeling the Effects of Excess Water on Soybean Growth in Converted Paddy Field in Japan. 2. Modeling the Effect of Excess Water on the Leaf area development and Biomass Production of Soybean, 9th Asian Crop Science Association Conference (Jeju, Korea), 2017.

- d-06. Nakano, Y., Y. Kojima, C. Kato, K. Noborio, K. Kamiya : Soil ice content determination using heating TDR method, Japan Geoscience Union Meeting 2017 (Makuhari), 2017.
- d-07. Kato, C., T. Nishimura: Predicting the effects of climate change on soil moisture at agricultural lands in Japan, International symposium on "Differentiating the impact of climate and socio-economical changes on natural ecosystems in Mongolia: comparative studies in Japan and Mongolia", Ulaanbaatar, 2017.
- d-08. 加藤千尋・白岩立彦・西村 拓・遠藤 明・佐々木長市：琵琶湖干拓地の水田転換畑における地下水位・土壌水分予測，2016年度土壌物理学大会（京都市），P11，2016.
- f-01. 坂井 勝・西脇淳子・加藤千尋・塩澤仁行・溝口 勝：環境を守る土の力～セシウムに対する土のはたらき～，福島市立福島第二小学校 教員向けセミナー，福島市，2016.12.19

鄒 青穎

- a-01. Tsou C.-Y., Chigira M., Matsushi Y., Hiraishi N., Arai N.: Coupling fluvial processes and landslide distribution toward geomorphological hazard assessment: a case study in a transient landscape in Japan. *Landslides*. (in press) DOI: <https://doi.org/10.1007/s10346-017-0838-3>, 2017
- a-02. Chen S.-C., Yang C.-N., Tsou C.-Y.: Bedform development and its effect on bed stabilization and sediment transport based on a flume experiment with non-uniform sediment. *International Journal of Sediment Research*, 32: 305-312, 2017.
- d-01. Tsou C.-Y.: Flexural toppling as a basic cause of a rain-induced slope failure in 2016, Taiwan. *Cross-strait Symposium on Soil and Water Conservation 2017*, 2017.
- d-02. Higaki D., Tsou C.-Y., Kato H., Hiroshi Y., Hayashi K.: Distribution of landslides induced by the Nepal Gorkha Earthquake in 2015 and their geomorphological characteristics. 平成28年度京都大学防災研究所研究発表講演会, D07, 2017.
- d-03. 安藤千晶・鈴木隆太郎・谷田貝亜紀代・増田南波・檜垣大助・鄒 青穎・David N. Petley・Melanie Froude・千木良雅弘：ネパールのLandslideとAPHRODITE降水量とモンスーンインデックスの関係. 平成28年度京都大学防災研究所研究発表講演会, P47, 2017.
- d-04. Tsou C.-Y., Lin H.-H., Chigira M.: A flexural toppling failure in the northern Central Range, Taiwan. *Japan Geoscience Union*, 2017.

森谷 慈宙

- a-01. Moritani S, Yamamoto T, Andry H, Saito H, Evapotranspiration and Mineral Content of *Sedum kamtschaticum* Fischer Under Saline Irrigation. *Communications in Soil Science and Plant Analysis*, 1-10. <https://doi.org/10.1080/00103624.2017.1358743>, 2017
- d-01. 森谷慈宙・荒木将太・南條宏肇：施設栽培におけるヒートポンプ加熱能力の推定，H29農業農村工学会大会講演会講演要旨集（神奈川・日本大学），2017.
- d-02. 森谷慈宙・宮内晴規・藤巻晴行・石田祐宣：施設栽培における太陽光パネルを用いた灌漑計画の検討，H29年砂丘学会全国大会要旨集，（新潟大学），2017.

【生物共生教育研究センター】

伊藤 大雄

- d-01. 伊藤大雄・石田祐宣：草生栽培リンゴ園の二酸化炭素収支に及ぼす草刈りの影響. 日本農業気象学会2017年全国大会（十和田市）, 2017.
- d-02. 伊藤大雄・石田祐宣：単棟ハウスにおける換気方法の違いが換気速度とハウス内温熱環境に及ぼす影響. 日本農業気象学会東北支部平成29年度大会（鶴岡市）, 2017.
- d-03. 遠藤 明・伊藤大雄・加藤千尋・佐々木長市・加藤 幸：無施肥条件の灰色低地土リンゴ園における土壌水分・間隙水ECおよび地温の特徴. 平成29年度農業農村工学会大会講演会（藤沢市）, 2017.
- f-01. 伊藤大雄：リンゴの有機栽培と特別栽培 ―藤崎農場での圃場試験でわかったこと―. 平成28年度生物共生教育研究センター公開講座「リンゴを科学する」講演要旨, 13-20, 2016.
- f-02. 伊藤大雄：気候変動と北東北のリンゴ栽培. 日本農業気象学会2017年全国大会公開シンポジウム（十和田市）, 2017.

林田 大志

- a-01. 松本和浩・藤田知道・佐藤早希・五十嵐恵・初山慶道・林田大志・塩崎雄之輔：リンゴ新品種'HFF63'/きみとTMの育成過程とその特性. 園芸学研究, 2017年9月7日受理

姜 東鎮

- a-01. Kang, D.J., Y. Ishii, H. Tazoe, K. Isobe, M. Higo, M. Hosoda, M. Yamada, S. Tokonami: Remediation of radiocesium-137 affected soil using napiergrass under different planting density and cutting frequency regimes. *Water Air Soil Pollut.* DOI: 10.1007/s11270-017-3444-z. 228:268, 2017.
- d-01. 姜 東鎮・田副博文・石井康之・床次真司・山田正俊：福島県浪江町警戒区域内におけるネピアグラスによる放射性セシウム除染. 第3報 低レベルカリウム肥料施与が放射性セシウム吸収に及ぼす影響. 日本作物学会第243回講演会（東京大学農学部）, 2017.
- d-02. 梅木直哉・姜 東鎮・鈴木裕之・松崎正敏：リンゴジュース粕を混合した飼料イネ WCS の発酵品質が嗜好性に及ぼす影響. 第67回東北畜産学会青森大会（青森市）, 2017.
- f-01. 姜 東鎮：イネの栽培管理（延べ三日間）. 生物共生教育研究センター主催親子体験学習講師. 2017.

房 家琛

- a-01. Fang, J.C., Y. Cao, M. Matsuzaki, H. Suzuki, H. Kimura: Effects of apple pomace-mixed silage on growth performance and meat quality in finishing pigs. *Anim. Sci. J.*, 87: 1516-1521, 2016.
- a-02. Yang, Cao., Y. Zang, R. Zhong, J.C. Fang, A. Zhang, N. Yoshida: Fermentation quality and nutritive value of fresh and fermented total mixed rations containing Chinese wildrye or corn stover. *Grass. Sci.*, 62: 213-222, 2016.
- a-03. 正木 卓・房 家琛：食品循環資源の飼料化とその市場形成. *農業と経済*: 83 (8): 61-69, 2017.
- d-01. 松崎正敏・木下結貴・小倉亮・齋藤知明・房家シン・鈴木裕之：リンゴ粕サイレージ給与で生産したラム肉の香気成分について. 日本緬羊研究会第61回大会（宮内庁御料牧場, 高根沢町）, 2016.10.
- d-02. 鈴木裕之・金 海燕・房 家シン・松崎正敏：成熟中のハムスター卵母細胞におけるNeurofilament(NF)サブユニットの局在と機能. 日本畜産学会第122回大会（神戸大学, 神戸市）, 2017.3.
- d-03. 松崎正敏・竹内紫穂・木村 中・房家シン・鈴木裕之：Difuctose Anhydride 3 (DFA3) の添加給与がめん羊の糖代謝に及ぼす影響. 日本畜産学会第122回大会（神戸大学, 神戸市）, 2017.3.
- d-04. 鈴木裕之・高田裕貴・房家シン・松崎正敏：成熟中のハムスター卵母細胞におけるグリア線維性酸性タンパク質の局在と機能. 東北畜産学会第67回青森大会（県民福祉プラザ 県民ホール, 青森市）, 2017.8.
- d-05. 木村 中・房家シン・鈴木裕之・松崎正敏：新生子めん羊への初乳追加給与が成長, 血液成分, 体組成および免疫機能に及ぼす影響. 日本畜産学会第123回大会（信州大学, 南箕輪村）, 2017.9.
- d-06. 房 家琛：青森県ならではの「弘大アップルビーフ」の開発. 東北畜産学会第67回大会（県民福祉プラザ 県民ホール, 青森市）, 2017.8.
- e-01. 房 家琛：肥育牛専用のリンゴ粕発酵TMR. *現代農業*. 9: 246-247, 2017.9.